# 若者の生活に関する調査 報 告 書 (抜 粋)

平成 28 年 9 月

内閣府政策統括官(共生社会政策担当)

# I 調査の概要

#### 1 調査目的

社会生活を営む上での困難を有する子供・若者に対する支援を効果的に推進するためには、これらの者の実態についての調査が不可欠であり、平成22年4月1日に施行された「子ども・若者育成支援推進法」第17条において、「国及び地方公共団体は第15条第1項に規定する子ども・若者が社会生活を円滑に営む上での困難を有することとなった原因の究明、支援の方法等に関する必要な調査研究を行うよう努めるものとする。」とされている。一方で、困難を有する子供・若者のうち、とりわけ「ひきこもり」状態にある者の状況については、個々の関係機関において網羅的に実態を把握することが困難である。本調査においては、上記の状況を踏まえ、全国の市区町村に居住する満15歳から満39歳の者及びその家族を対象に、「ひきこもり」に該当する子供・若者の人数やそのきっかけ、必要としている支援内容などについて調査することで、「ひきこもり」を始めとする困難を有する子供・若者への地域支援ネットワークの形成促進につなげることを目的として実施する。

#### 2 調査項目

- (本人票) (1) 基本的属性について(Q1~Q8)
  - (2) 学校生活に関すること(Q9~Q12)
  - (3) 就労に関すること(Q13~Q17)
  - (4) 普段の活動に関すること(Q18~Q19)
  - (5) ひきこもりの状態に関すること(Q20~Q23)
  - (6) 相談機関に関すること(Q24~Q26)
  - (7) ひきこもりの状態からの立ち直りに関すること(Q27~Q31)
  - (8) 自分についてあてはまること(Q32~Q34)
  - (9) 家庭の状況について(Q35)
  - (10) 悩み事の相談に関すること(Q36~37)

#### (家族票)

- (1)対象者の基本的属性について(Q1~Q5)
- (2)対象者の学校生活に関すること(Q6~7)
- (3) 対象者の就労に関すること(Q8)
- (2) 対象者のひきこもりの状態に関すること(Q9~Q11)
- (3) 相談機関に関すること(Q12~14)
- (4) 対象者のひきこもりの状態からの立ち直りに関すること (Q15~17)
- (5) 自由意見(Q18)

# 3 調査対象

- (1) 母集団 全国の市区町村に居住する満15歳から満39歳の者
- (2) 標本数 本人5,000人と同居する成人家族

# 4 調査時期

平成 27 年 12 月 11 日~ 12 月 23 日

# 5 調査方法

調査員による訪問留置・訪問回収

# 6 調査実施機関

一般社団法人 中央調査社

# 7 標本抽出方法

地 点 数:198市区町村 200地点抽 出 方 法:層化二段無作為抽出法

#### [層 化]

(1) 全国の市町村を、都道府県を単位として次の11地区に分類した。 (地 区)

南九州地区=熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

北海道地区	二北海道						(1道	)
東北地区	=青森県、	岩手県、	宮城県、	秋田県、	山形県、	福島県	(6県	)
関東地区	=茨城県、	栃木県、	群馬県、	埼玉県、	千葉県、	東京都、		
	神奈川県	f					(1都69	具)
北陸地区	=新潟県、	當山県、	石川県、	福井県			(4県	)
東山地区	=山梨県、	長野県、	岐阜県				(3県	)
東海地区	=静岡県、	愛知県、	三重県				(3県	)
近畿地区	=滋賀県、	京都府、	大阪府、	兵庫県、	奈良県、	和歌山県	(2府4月	具)
中国地区	=鳥取県、	島根県、	岡山県、	広島県、	山口県		(5県	)
四国地区	=徳島県、	香川県、	愛媛県、	高知県			(4県	)
北九州地区	二福岡県、	佐賀県、	長崎県、	大分県	,		(4県	)

(4県 )

- (2) 各地区においては、さらに都市規模によって次のように 25 分類しそれぞれを第1次層として、計65 層とした。
  - 大都市(都市ごとに分類)

(東京都区部、札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、 新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、広島市、岡山市、 北九州市、福岡市、熊本市)

- 〇 人口20万人以上の市
- 〇 人口10万人以上の市
- 人口10万人未満の市
- 〇 郡部 (町村)
  - (注) ここでいう都市とは、平成27年4月1日現在市制施行の地域である。 また、人口による都市規模の分類は、住民基本台帳に基づく平成26年1月1日現在の 人口による。

[標本数の配分及び調査地点数の決定]

地区・都市規模別各層における母集団数(平成 26 年 1 月 1 日現在の満 15〜39 歳人口)の大きさによりそれぞれ 200 地点を比例配分し、各調査地点の標本数を 25 にした。

(抽 出)

- (1) 第1次抽出単位となる調査地点として、平成22年国勢調査時に設定された調査区を使用した。
- (2) 調査地点(調査区)の抽出は、調査地点数が2地点以上割り当てられた層については、

# 抽出間隔= 層における国勢調査時の当該母集団人口(計) 層で算出された調査地点数

を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。また、層内での調査地点数が1地点の場合には、 乱数表により無作為に抽出した。

・ (3) 抽出に際しての各層内における市区町村の配列順序は、平成 22 年国勢調査時の市区町村コ ードに従った。

# [結果]

以上の抽出作業の結果得られた地区別標本数・調査地点数は次のとおりである。

									左…標本数、	右…地点数
-			2 1 大市			人口20万 以上の市	人口10万 以上の市	その他の市	町村	計
北海道			75(3)			25(1)	25(1)	25(1)	25(1)	175(7)
北伊坦			札幌市							
東北 ———		50(2)			100(4)	50(2)	100(4)	50(2)	350(14)	
		仙台市								
関東			50(2)	50(2)	25(1)	400(16)	325(13)	225(9)	75(3)	1150(46)
<b>州</b> 州		千葉市	さいたま	相模原市						
京浜	400(16)	150(6)	75(3)							625(25)
	23区	横浜市	川崎市							
北陸					25(1)	50(2)	25(1)	75(3)	25(1)	200(8)
1L KEE					新潟市				ļ	
東山						50(2)	25(1)	75(3)	25(1)	175(7)
- <del></del>	† · · · · ·	100(4)		25(1)	25(1)	125(5)	125(5)	100(4)	25(1)	525(21)
東海		名古屋市		静岡市	浜松市					
`IC.494	100(4)	50(2)	50(2)		25(1)	250(10)	125(5)	150(6)	50(2)	800(32)
近畿	大阪市	京都市	神戸市		堺市					
-t-E	1		50(2)		25(1)	50(2)	75(3)	50(2)	25(1)	275(11)
中国			広島市		岡山市					
四国						50(2)	25(1)	50(2)	25(1)	150(6)
北九州	1	25(1)	75(3)			75(3)	25(1)	100(4)	50(2)	350(14)
4676911		北九州市	福岡市							1
南九州					25(1)	50(2)	50(2)	75(3)	25(1)	225(9)
P9 /4711					熊本市	<u> </u>				<u> </u>
計	500(20)	325(13)	425(17)	75(3)	150(6)	1225(49)	875(35)	1025(41)	400(16)	5000(200)

### 8 回収結果

(1) 有効回収数(率) 本人 3,115人(62.3%) 家族 2,897人

本人票+家族票完了 2,795 人

本人票のみ完了 320人

家族票のみ完了 102 人 どちらか一方は完了 3,217 人 (64.3%)

(2) 調査不能数(率) 1,783 人 (35.7%) - 不能内訳 -

> 転 居 294 長期不在 80 一時不在 655 住所不明 74 拒 否 654 そ の 他 26 (病気など)

# 9 性·年齡別回収結果

	性・年齢	標本数	回収数	回収率		性・年齢	標本数	回収数	回収率
									%
男	15~19 歳	425	295	69. 4	女	15~19 歳	388	280	72. 2
	20~24 歳	448	241	53. 8		20~24 歳	496	300	60. 5
	25~29 歳	490	257	52. 4		25~29 歳	491	291	59. 3
性	30~34 歳	577	344	59. 6	性	30~34 歳	500	333	66. 6
	35~39 歳	585	354	60. 5		35~39 歳	600	420	70.0
	計	2, 525	1, 491	59. 0		計	2, 475	1, 624	65. 6

※回収数は本人票

# Ⅱ 定義

#### 1 広義のひきこもり群(本人票)

今回の調査では、社会的自立に至っているかどうかに着目して、以下のように定義する。

「Q20 ふだんどのくらい外出しますか。」について、下記の5~8に当てはまる者

- 5. 趣味の用事のときだけ外出する
- 6. 近所のコンビニなどには出かける
- 7. 自室からは出るが、家からは出ない
- 8. 自室からほとんど出ない

かつ

「Q22 現在の状態となってどのくらい経ちますか。」について、6か月以上と回答 した者

であって、

「Q23 現在の状態になったきっかけは何ですか。」で、

- ①「病気(病名: )」を選択し、病名に統合失調症又は身体的な病気を記入した者、
- ②「妊娠した」を選択した者、
- ③「その他( )」を選択し、( )に自宅で仕事をしている旨や出産・育児をしている旨を記入した者

又は

「Q13 あなたは現在働いておられますか。」で、「専業主婦・主夫又は家事手伝い」 と回答した者(注1) (注2)

を除いた人数 49人(有効回収率に占める割合 1.57%)。

このうち、Q20で6、7又は8に該当する者を「狭義のひきこもり」と、Q20で5に該当する者を「準ひきこもり」とし、「狭義のひきこもり」と「準ひきこもり」の合計を「広義のひきこもり」とする。

- (注 1) 今回調査よりQ18の除外項目を補完する目的で追加している。なお、前回調査時はひきこもり群の者で本項目の該当者はいなかった。
- (注 2) 広義のひきこもり群の中には「勤めている」と回答した者も含まれているが、回答状況や自由記述の内容をふまえて判断した。

総務省「人口推計」(2015年)によれば、15~39歳人口は3,445万人なので、広義のひきこもりの推計数は下記の計算より54.1万人となる。

	(該当人数(人)	(有効回収率に 占める割合(%)	(全国の推計数 ) (万人)	ъ 遊ひきこもり
ふだんは家にいるが、自分の趣味に 関する用事のときだけ外出する	33	1.06	36. 5	36.5万人
ふだんは家にいるが、近所のコンビ ニなどには出かける	11	0. 35	12. 1	十
自室からは出るが、家からは出ない 又は 自室からほとんど出ない	5	0. 16	5. 5	17.6万人
計 1	49			- 広義のひきこもり 54.1万人

なお、Q23③その他で統合失調症と回答した者を広義のひきこもり群から除外しているが、含めた場合の推計数は下記の計算より56.3万人となる。(注1)

	【皎当人数 (人)	〔有効回収率に 占める割合(%)〕	( 全国の推計数 ) (万人)	っ 準ひきこもり
ふだんは家にいるが、自分の趣味に 関する用事のときだけ外出する	35	1. 12	38. 7	38.7万人
ふだんは家にいるが、近所のコンビ ニなどには出かける	11	0. 35	12. 1	十 狭義のひきこもり
自室からは出るが、家からは出ない 又は 自室からほとんど出ない	5	0. 16	5. 5	17.6万人
<b>a</b> t	51		<del></del> .	広義のひきこもり 56.3万人

(注 1) 前回調査では、病名に統合失調症と記入した者を除外して集計したことから、今回もそれ に準じたが、厳密には本人の回答のみで統合失調症のケースを除外できないため、あるい は、統合失調症のケースを除外することが必須ともいえないため、今回の調査では、統合 失調症と回答した者も含めた人数と推計値を併記した。

#### 2 親和群 (本人票) (注 2)

Q32 13~16の4項目が、すべて「1. はい」又は1項目のみ「2. どちらかといえばはい」と答えた者から「広義のひきこもり群」を除いた者。

٠		_	とりりかといえははい	3	どちらかといえばいいえ	4	いいえ
(14) 自分	も、家や自	室に閉	   じこもりたいと思うことが	 ある	••••••		
	1 はい	2	どちらかといえばはい	3	どちらかといえばいいえ	4	いいえ
(15) 嫌な	出来事があ	ると、	外に出たくなくなる		•		
	1 はい	2	どちらかといえばはい	3	どちらかといえばいいえ	4	いいえ
(16) 理由	があるなら	家や自	室に閉じこもるのも仕方が	ないと	思う	`	

(注 2) 「ひきこもりを共感・理解し、ともすると閉じこもりたいと思うことがある人たち」を抽出し、親和群とした。

#### 3 一般群(本人票)

į

回答者全体から「広義のひきこもり群」「親和群」を除いた者でQ32 13~16の項目にすべて回答している者。

#### (注3) 親和性得点の度数分布

Q32の項目のうち、下に挙げた4項目を「ひきこもり親和性」を示す項目とした。4項目の合計点を「ひきこもり親和性」の程度を示す得点とした。

調査実施の際の選択肢は、「1. はい」「2. どちらかといえばはい」「3. どちらかといえばいいえ」「4. いいえ」であったため、得点が高いほど「ひきこもり親和性」が高いことを示すよう、逆転処理を行なった上で4項目の得点を合計している。可能な得点範囲は4点から16点であり、平均値は9.04、標準偏差は3.01であった。

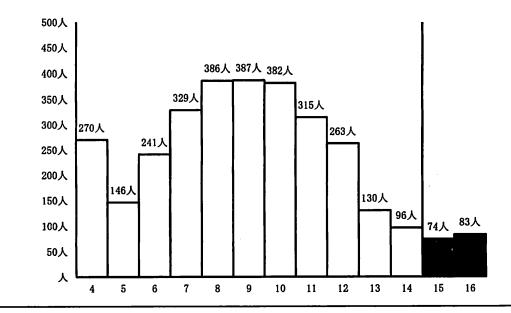
「ひきこもり親和性」が 15 点~16 点(Q 3 2 1 3 ~ 1 6 にすべて「1. はい」と回答するか 1 項目のみ「2. どちらかといえばはい」と回答)であった 157 名から、広義のひきこもり群と判断された 7 名を除き、残された 150 名を親和群とした。

「ひきこもり親和性」が 14 点以下である 2945 名から、広義のひきこもり群と判断された 40 名を除き、残された 2,905 名を一般群とした。

親和群の「ひきこもり親和性」得点の平均値は 15.5、標準偏差は 0.5 であった。また、広義のひきこもり群の平均値は 11.5、標準偏差は 2.8、一般群の平均値は 8.7、標準偏差は 2.7 であった。

# 「ひきこもり親和性」の項目

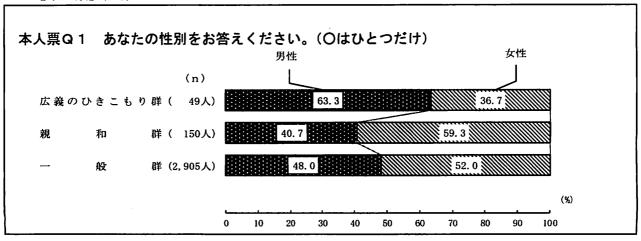
- Q32 13. 家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる
- Q32 14. 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある
- Q32 15. 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる
- Q32 16. 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う



# Ⅲ 調査の結果

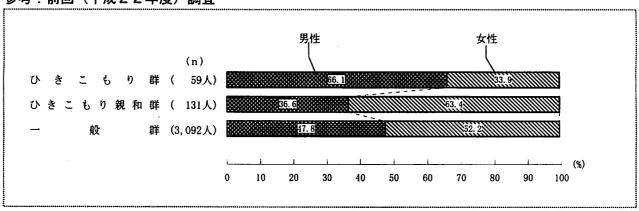
#### 1 【本人票】性別

4



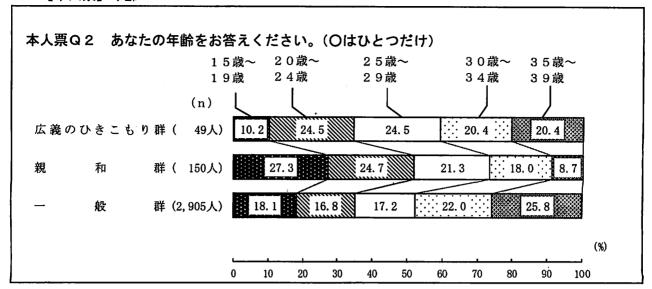
回答者の性別は、広義のひきこもり群では、「男性」63.3%、「女性」36.7%、親和群では、「男性」40.7%、「女性」59.3%、一般群では、「男性」48.0%、「女性」52.0%であった。

#### 参考:前回(平成22年度)調査



※平成22年度調査では、広義のひきこもり群を「ひきこもり群」、親和群を「ひきこもり親和群」 と表記している。以下同。

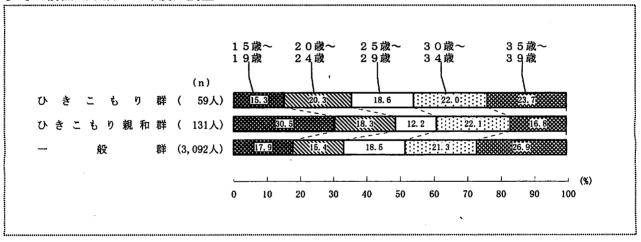
#### 2 【本人票】年齢



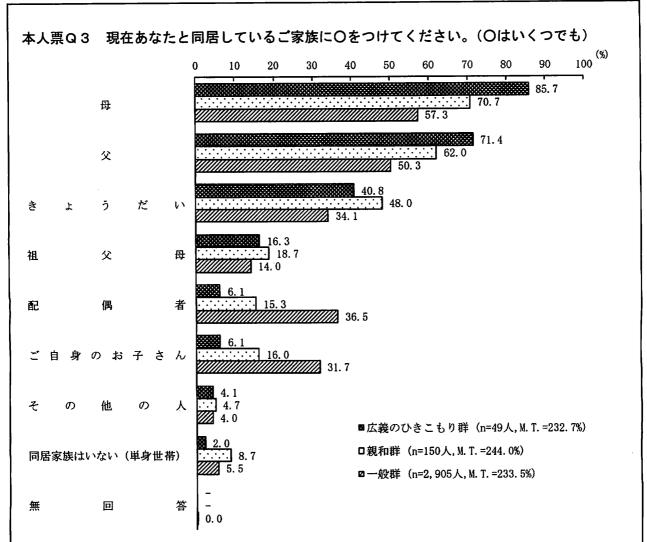
回答者の年齢は、広義のひきこもり群では、「15歳~19歳」10.2%、「20歳~24歳」24.5%、「25歳~29歳」24.5%、「30歳~34歳」20.4%、「35歳~39歳」20.4%であった。

親和群では、「15 歳~19 歳」 27.3%、「20 歳~24 歳」 24.7%、「25 歳~29 歳」 21.3%、「30 歳~34 歳」 18.0%、「35 歳~39 歳」 8.7%であった。

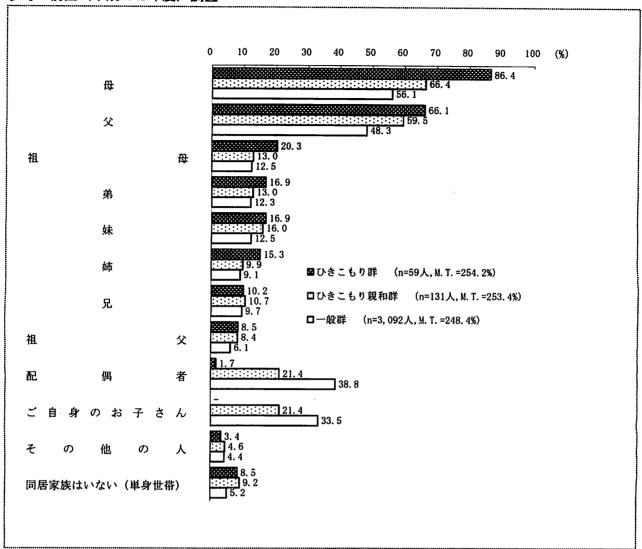
一般群では、「15 歳~19 歳」18.1%、「20 歳~24 歳」16.8%、「25 歳~29 歳」17.2%、「30 歳~34 歳」22.0%、「35 歳~39 歳」25.8%であった。



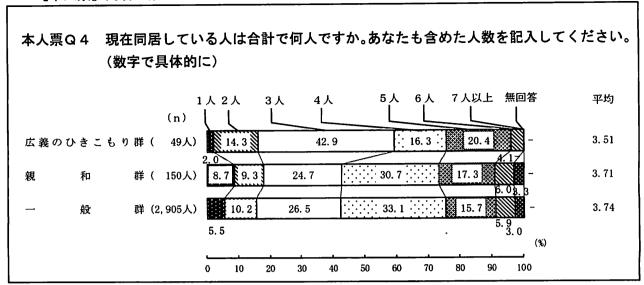
# 3 【本人票】同居家族

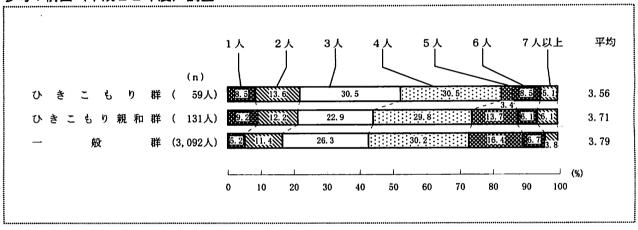


参考:前回(平成22年度)調査

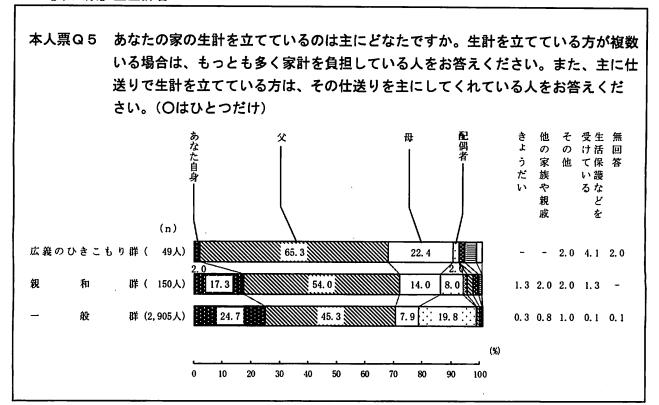


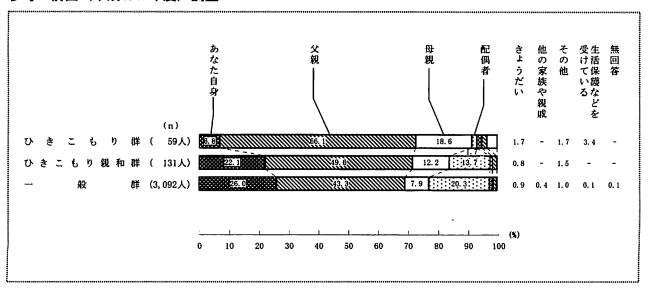
# 4 【本人票】同居人数



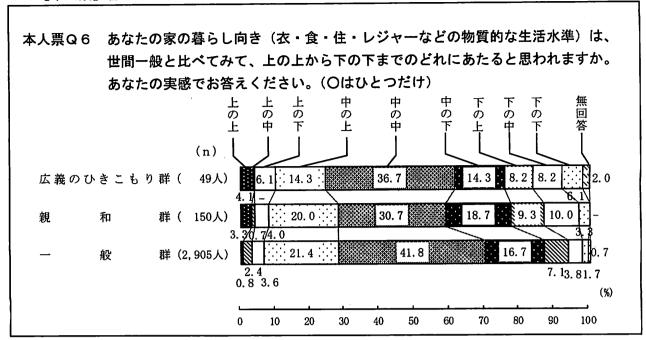


# 5 【本人票】主生計者

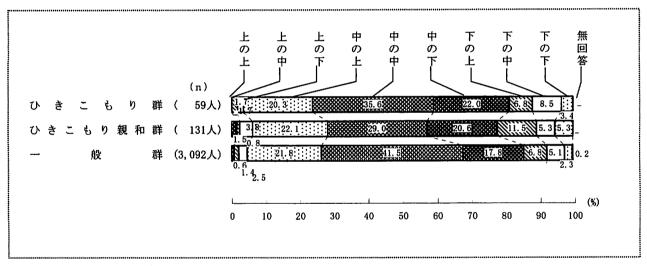




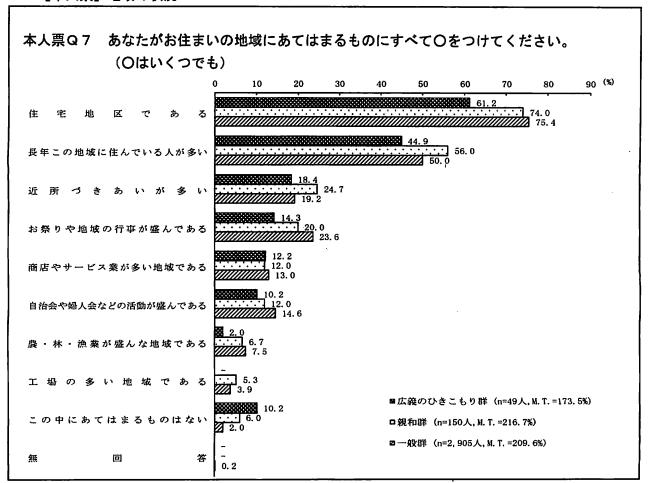
# 6 【本人票】暮らし向き



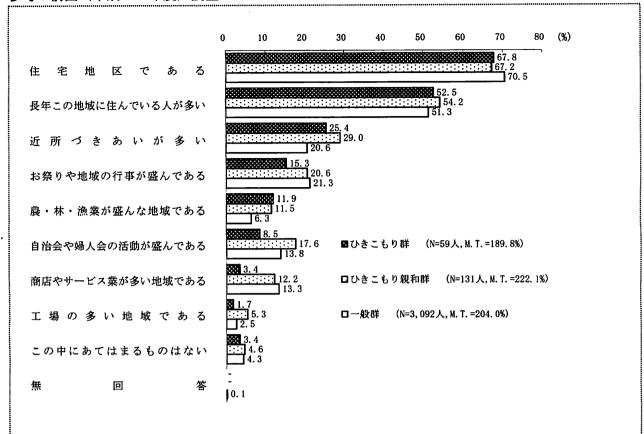
暮らし向きについて聞いたところ、各群とも、「中の中」が最も多く、『中以上』(「上の上」+「上の中」+「上の下」+「中の上」+「中の中」+「中の下」)とする者の割合は7割を超えている。



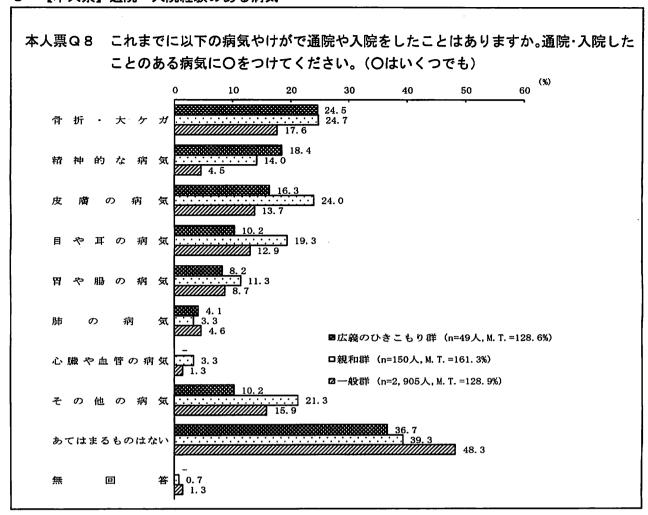
#### 7 【本人票】地域の状況



地域の状況について聞いたところ、各群とも「住宅地区である」が最も多く、次いで「長年この 地域に住んでいる人が多い」となっている。

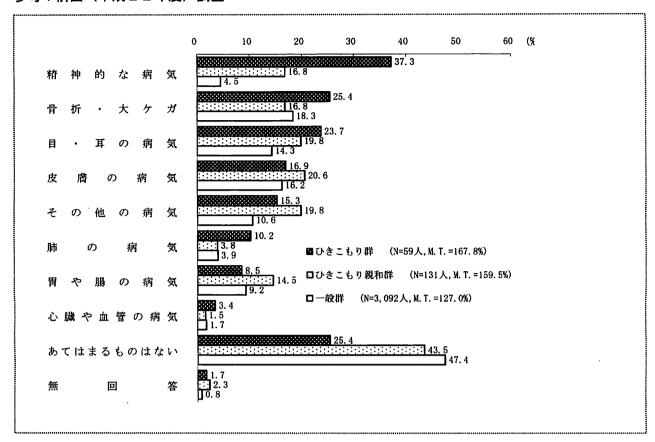


# 8 【本人票】通院・入院経験のある病気

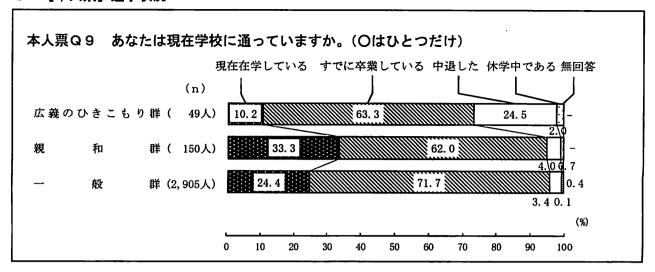


これまでに通院・入院経験のある病気やけがについて聞いたところ、「精神的な病気」をあげた者の割合は広義のひきこもり群で18.4%、親和群で14.0%、一般群で4.5%であった。

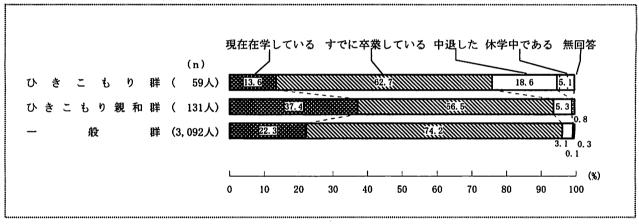
また、「あてはまるものはない」と回答した者は、広義のひきこもり群で 36.7%、親和群で 39.3%、 一般群で 48.3%であった。



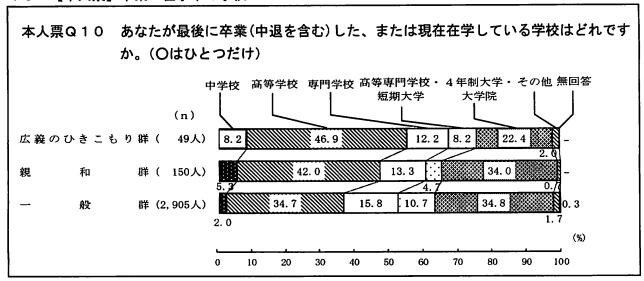
#### 9 【本人票】通学状況



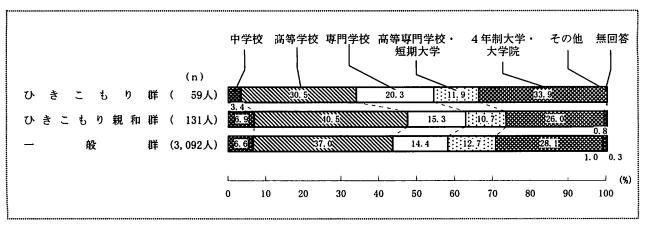
通学状況について聞いたところ、「現在在学している」と答えた者の割合は親和群で33.3%、「すでに卒業している」と答えた者の割合は一般群で71.7%、「中退した」と答えた者の割合は広義のひきこもり群で24.5%、「休学中である」と答えた者の割合は広義のひきこもり群で2.0%となっている。



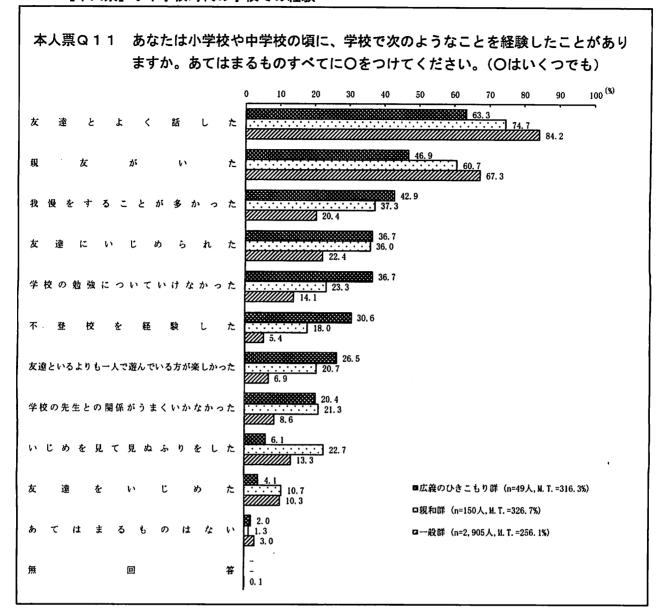
# 10 【本人票】卒業・在学中の学校



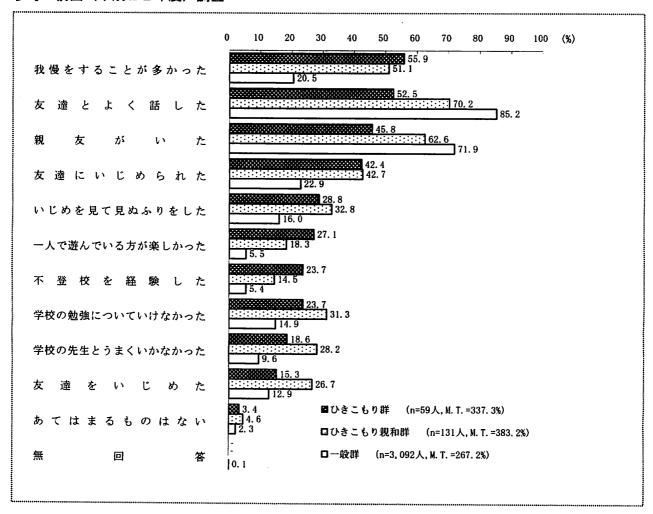
最後に卒業した、又は在学中の学校について聞いたところ、「中学校」と答えた者の割合は広義のひきこもり群で 8.2%、親和群で 5.3%、一般群で 2.0%となっている。「高等学校」と答えた者の割合は広義のひきこもり群で 46.9%、親和群で 42.0%、一般群で 34.7%となっている。「4年制大学・大学院」と答えた者の割合は広義のひきこもり群で 22.4%、親和群で 34.0%、一般群で 34.8%となっている。



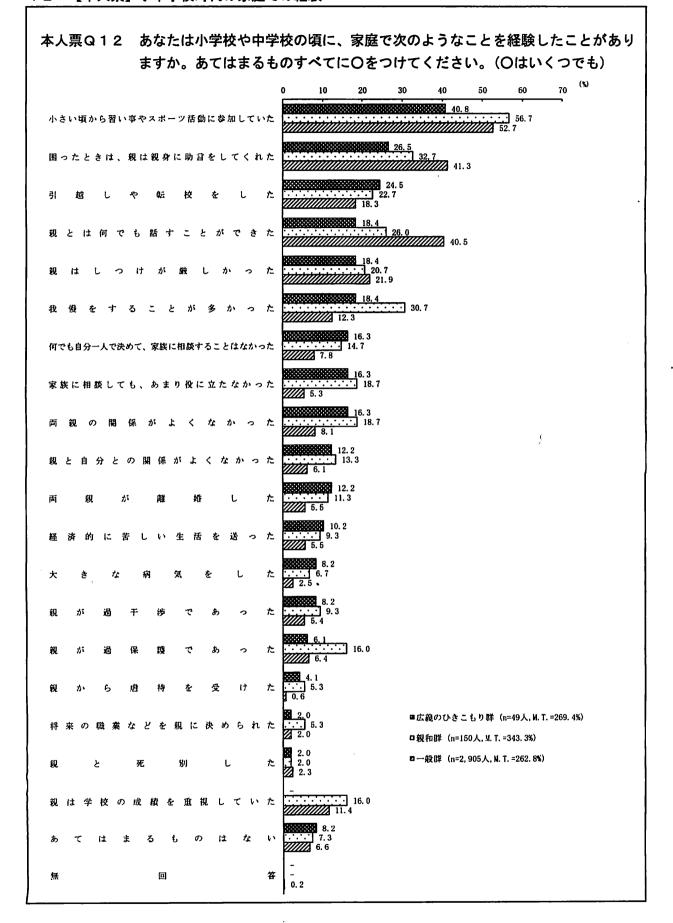
#### 11 【本人票】小中学校時代の学校での経験



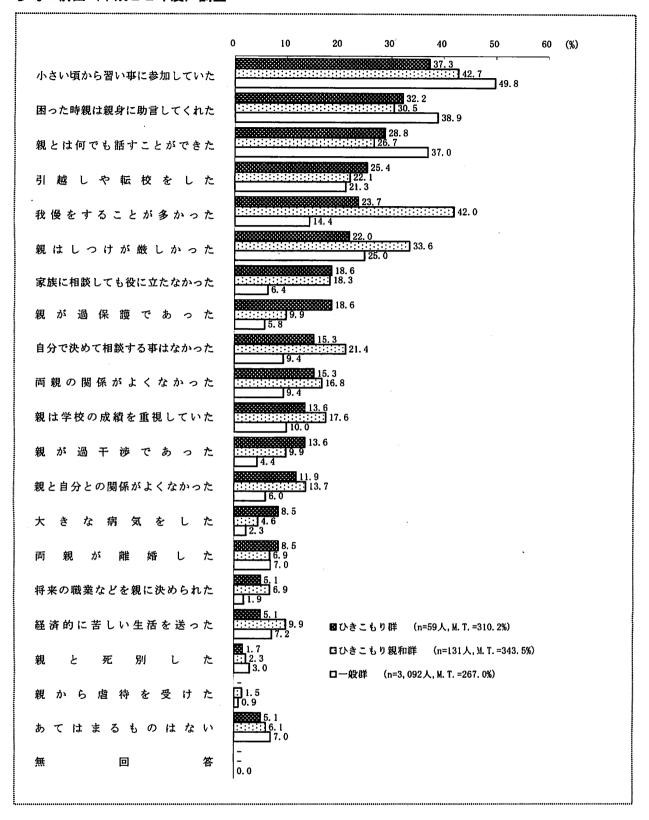
小中学校時代の学校の経験について聞いたところ、「友達とよく話した」をあげた者の割合は一般群で84.2%、「親友がいた」をあげた者の割合は一般群で67.3%「我慢をすることが多かった」をあげた者の割合は、広義のひきこもり群で42.9%、親和群で37.3%、「友達にいじめられた」をあげた者の割合は広義のひきこもり群で36.7%、親和群で36.0%、「不登校を経験した」をあげた者の割合は広義のひきこもり群で30.6%、親和群で18.0%となっている。



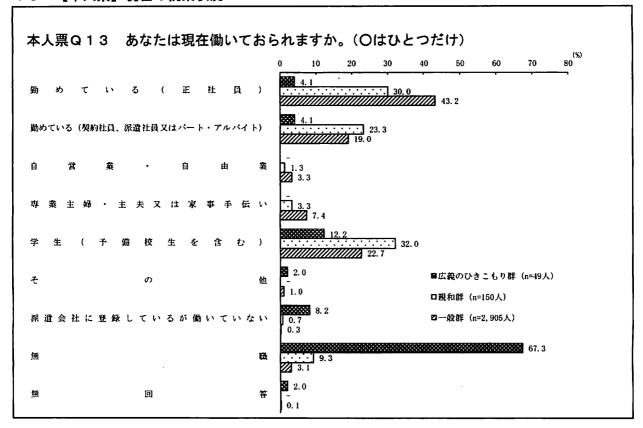
#### 12 【本人票】小中学校時代の家庭での経験



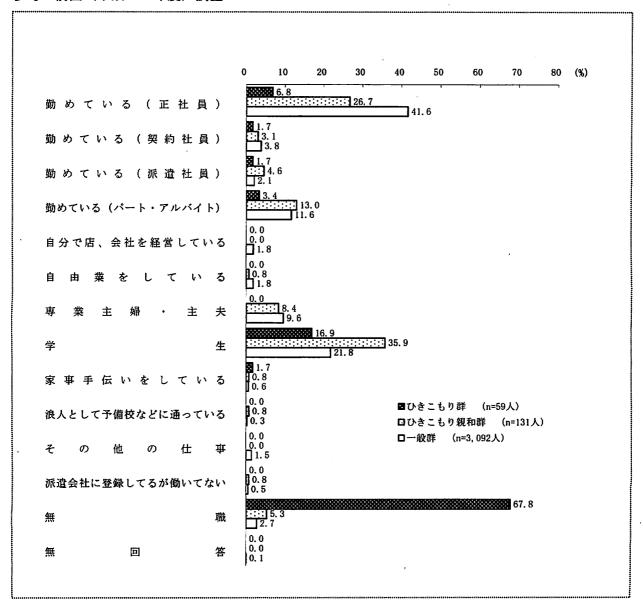
小・中学校時代の家庭での経験について聞いたところ、「困ったときは、親は親身に助言をしてくれた」をあげた者の割合は一般群で 41.3%、「親とは何でも話すことができた」をあげた者の割合は一般群で 40.5%となっている。



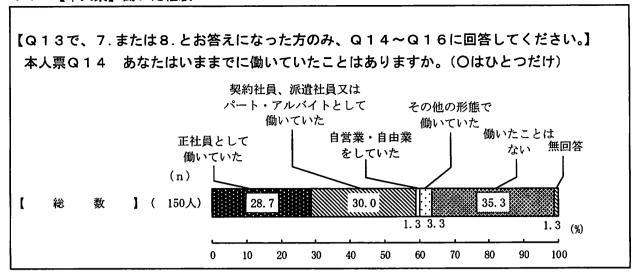
#### 13 【本人票】現在の就業状況



現在の就業状況について聞いたところ、「勤めている」と答えた者の割合は一般群で 43.2%、「専業主婦・主夫又は家事手伝い」と答えた者の割合は一般群で 7.4%、「学生」と答えた者の割合は親和群で 32.0%、「派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」と答えた者の割合は広義のひきこもり群で 8.2%、「無職」と答えた者の割合は広義のひきこもり群で 67.3%、親和群で 9.3%となっている。

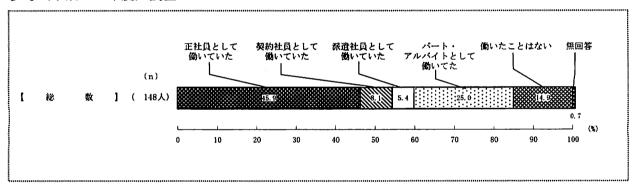


#### 14 【本人票】働いた経験

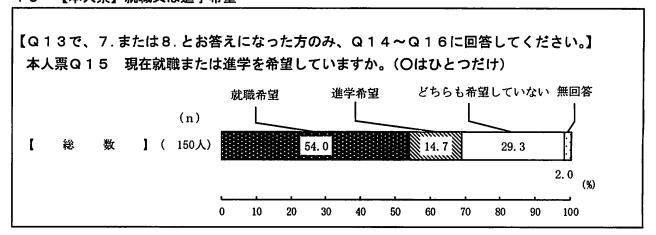


Q13で「7.派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」、又は「8.無職」と答えた者に働いた経験を聞いたところ、「正社員として働いていた」と答えた者の割合が28.7%、「契約社員、派遣社員、パート・アルバイトとして働いていた」と答えた者の割合が30.0%で、「働いたことはない」と答えた者の割合が35.3%となっている。

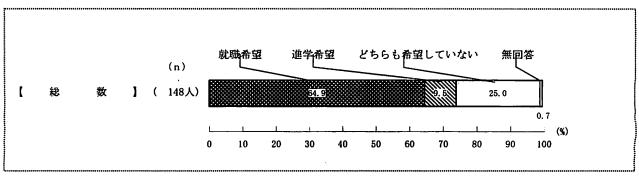
#### 参考(平成22年度)調査



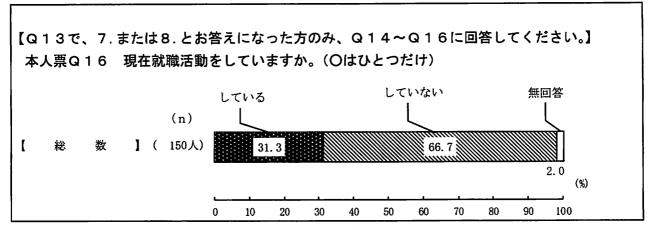
#### 15 【本人票】就職又は進学希望



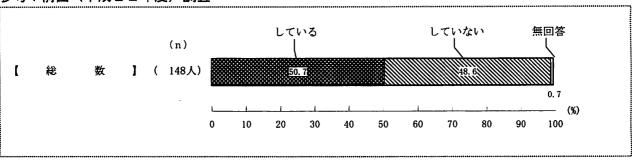
Q13で「7.派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」、又は「8.無職」と答えた者に、現在就職又は進学を希望しているか聞いたところ、「就職希望」と答えた者の割合が54.0%、「進学希望」と答えた者の割合が14.7%、「どちらも希望していない」と答えた者の割合が29.3%となっている。



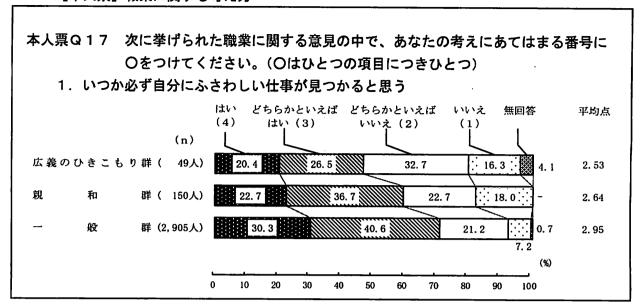
# 16 【本人票】就職活動



Q13で「7.派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」、又は「8.無職」と答えた者に、現在就職活動をしているか聞いたところ、「している」と答えた者の割合が31.3%、「していない」と答えた者の割合が66.7%となっている。

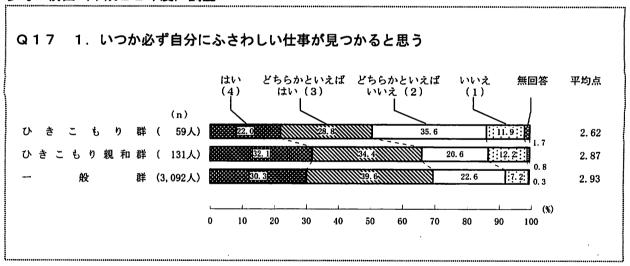


# 17 【本人票】職業に関する考え方

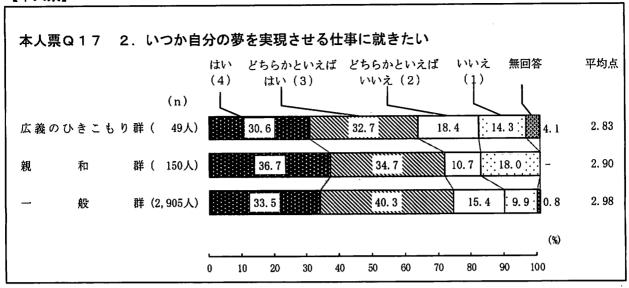


職業に関する4つの意見について、自分の考えにあてはまるか聞いた。

『いつか必ず自分にふさわしい仕事が見つかると思う』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で46.9%、親和群で59.3%、一般群で70.9%となっている。

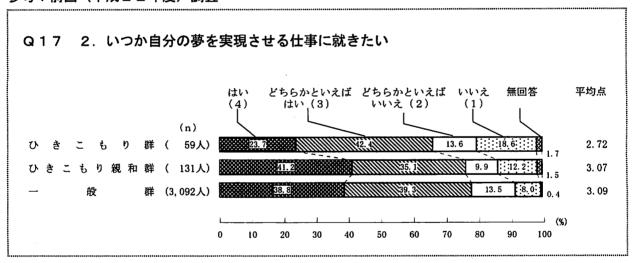


#### 【本人票】

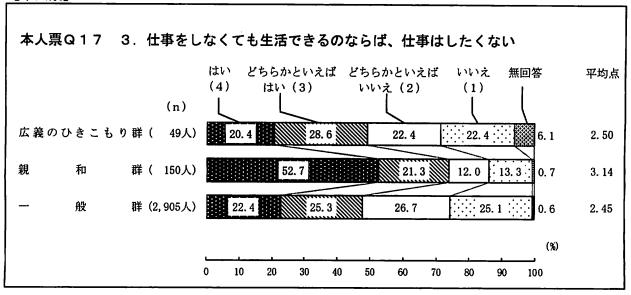


『いつか自分の夢を実現させる仕事に就きたい』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で63.3%、親和群で71.3%、一般群で73.9%となっている。

参考:前回(平成22年度)調査

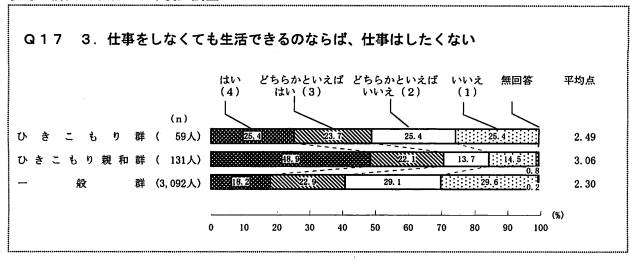


#### 【本人票】

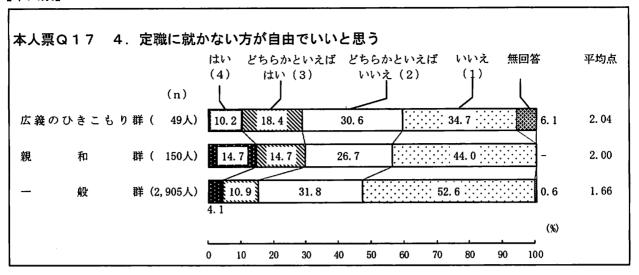


『仕事をしなくても生活できるのならば、仕事はしたくない』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で 49.0%、親和群で 74.0%、一般群では 47.7%となっている。

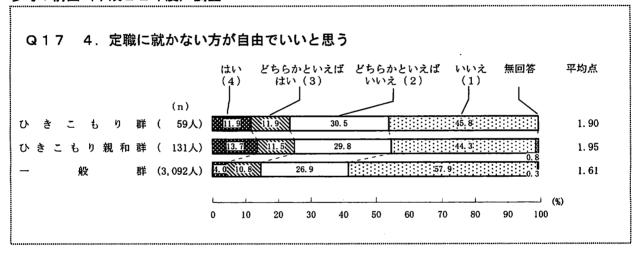
参考:前回(平成22年度)調査



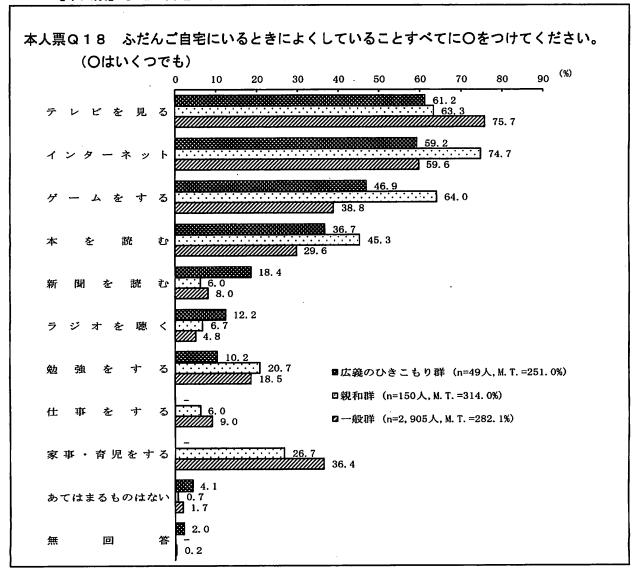
#### 【本人票】



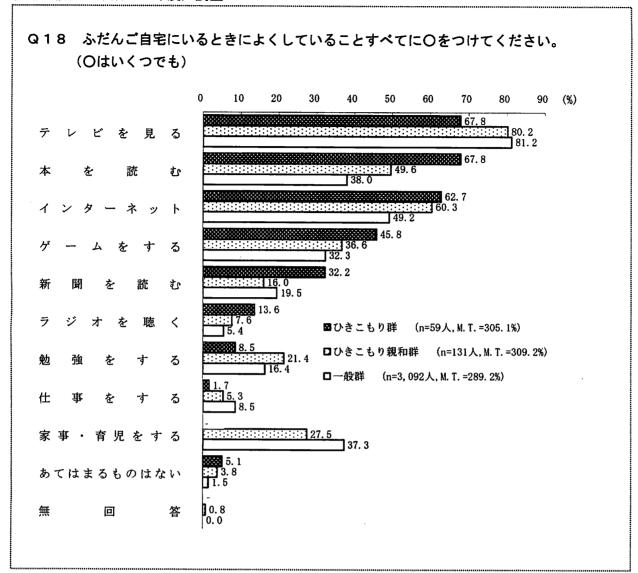
『定職に就かない方が自由でいいと思う』について聞いたところ、『いいえ』(「いいえ」+「どちらかといえばいいえ」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で 65.3%、親和群で 70.7%、一般群で 84.4%となっている。



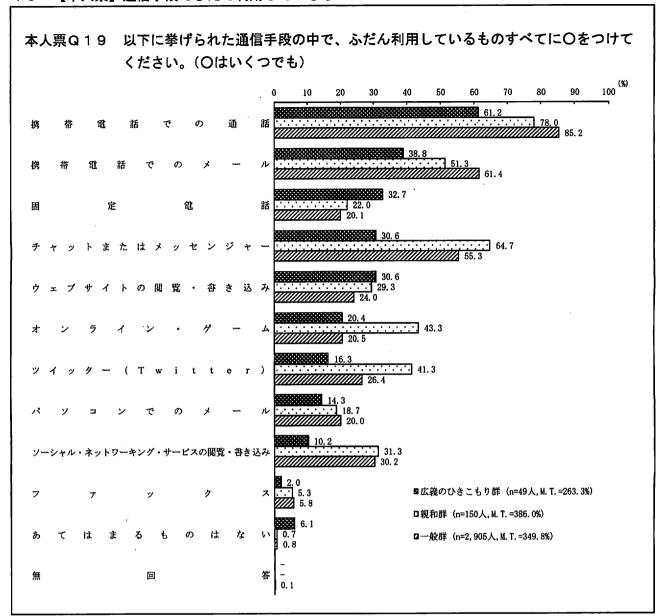
### 18 【本人票】ふだん自宅でよくしていること



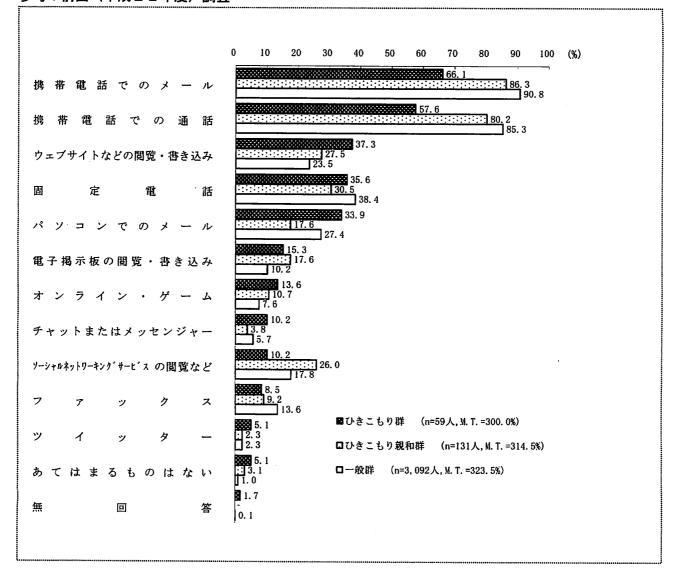
ふだん自宅でよくしていることについて聞いたところ、「テレビを見る」をあげた者の割合は一般群で 75.7%、「新聞を読む」をあげた者の割合は広義のひきこもり群で 18.4%、「ラジオを聴く」をあげた者の割合は広義のひきこもり群で 12.2%となっている。



### 19 【本人票】通信手段でふだん利用しているもの

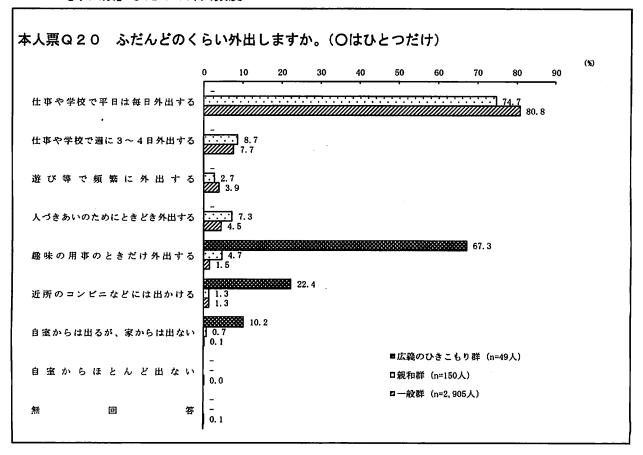


通信手段でふだん利用しているものについて聞いたところ、「携帯電話での通話」をあげた者の割合は一般群で85.2%、「携帯電話でのメール」をあげた者の割合は一般群で61.4%、「固定電話」をあげた者の割合は広義のひきこもり群で32.7%、「あてはまるものはない」をあげた者の割合は広義のひきこもり群で6.1%となっている。



## ※Q20の設問は、広義のひきこもり群を定義するために使用している。

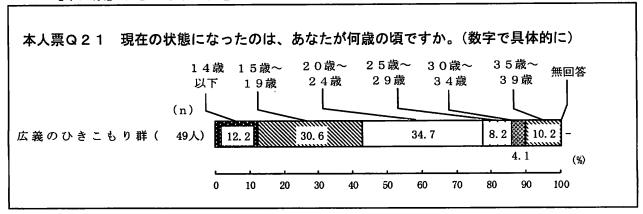
## 20 【本人票】ふだんの外出頻度



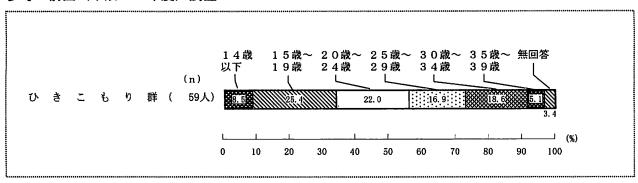
<u>※本人票Q21~SQ26\_1は、本人票Q20において外出頻度が低かった者(本人票Q20において5~8を選択した者)のみが回答する項目となっている。</u>

本報告書では、その中でも広義のひきこもり群に該当する者の結果について記載する。

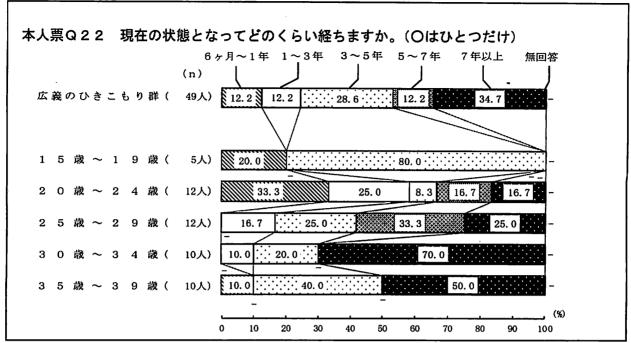
### 21 【本人票】ひきこもりの状態になった年齢



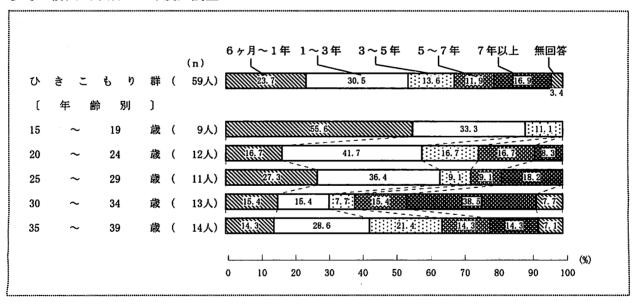
現在の状態になったのは何歳の頃か聞いたところ、「14歳以下」が 12.2%、「15~19歳」が 30.6%、「20~24歳」が 34.7%、「25~29歳」が 8.2%、「30~34歳」が 4.1%、「35~39歳」が 10.2%となっている。



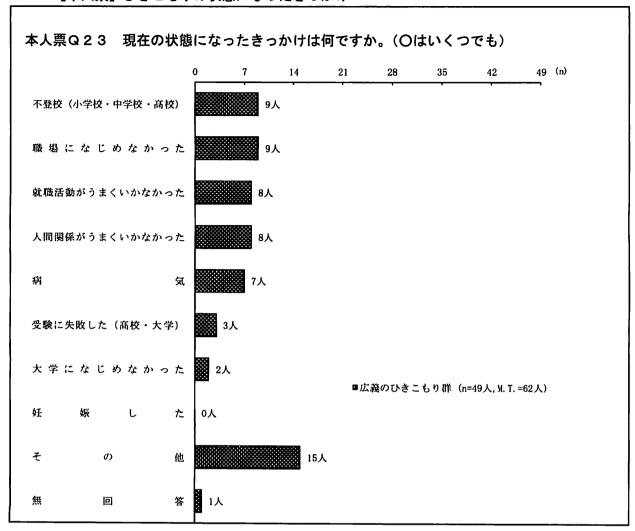
### 22 【本人票】ひきこもりの状態になってからの期間



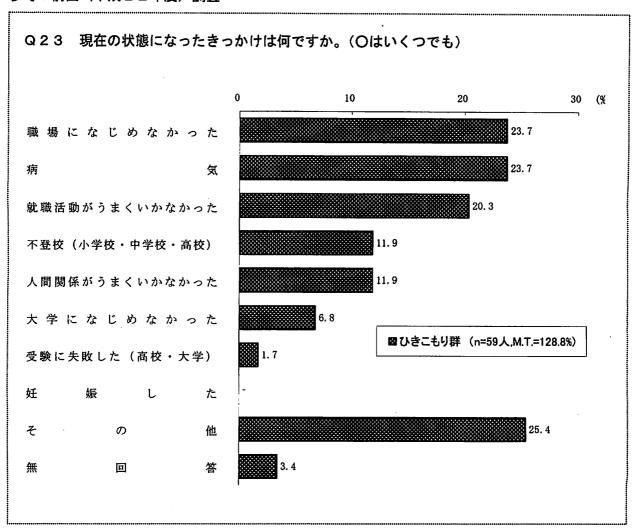
現在の状態になってからの期間を聞いたところ、「 $6 ext{ }$   $ext{ }$  ext



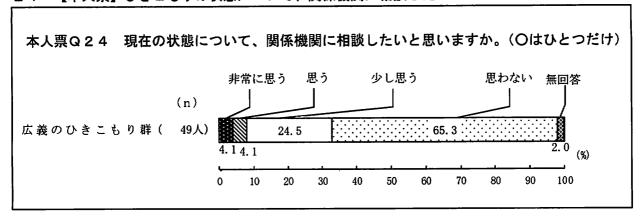
## 23 【本人票】ひきこもりの状態になったきっかけ



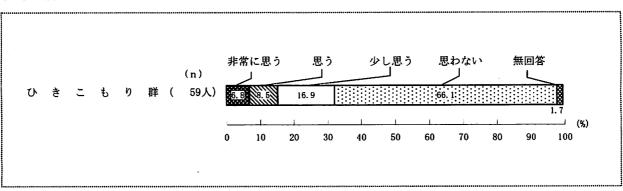
現在の状態になったきっかけを 49 人に聞いたところ、「不登校」、「職場になじめなかった」をあげた者がそれぞれ 9人、以下、「就職活動がうまくいかなかった」、「人間関係がうまくいかなかった」 (8人)、病気 (7人)、「受験に失敗した」(3人)、「大学になじめなかった」 (2人)となっている。 なお、「その他」 (15人) については、「無気力」、「特に理由はない」、「インドアなので」、「特に思いつかない」、「会社が営業譲渡された」、「好きな事をしていたいから」などを記載した者のほか、具体的な記載がない者も多かった。



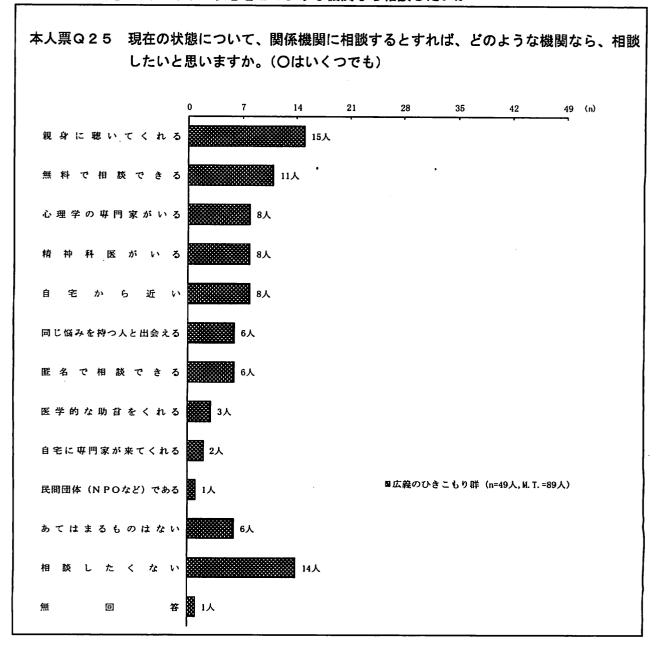
### 24 【本人票】ひきこもりの状態について、関係機関に相談したいか



現在の状態について、関係機関に相談したいか聞いたところ、「非常に思う」と答えた者は 4.1%、「思う」は 4.1%、「少し思う」は 24.5%、「思わない」は 65.3%となっている。

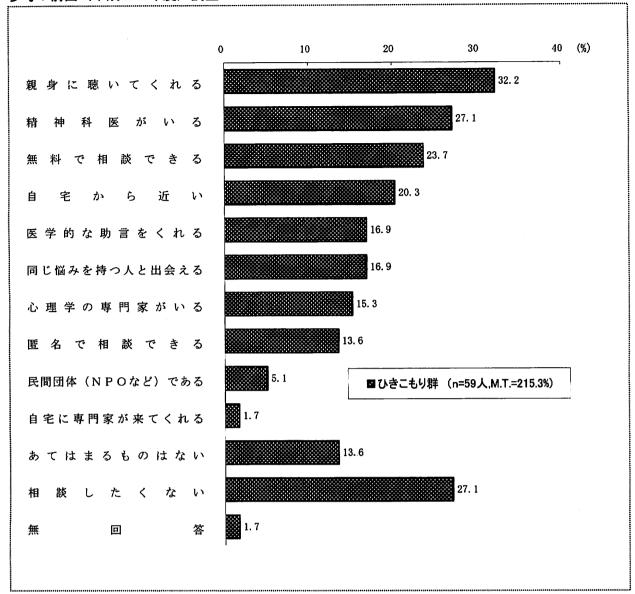


### 25 【本人票】ひきこもりの状態をどのような機関なら相談したいか

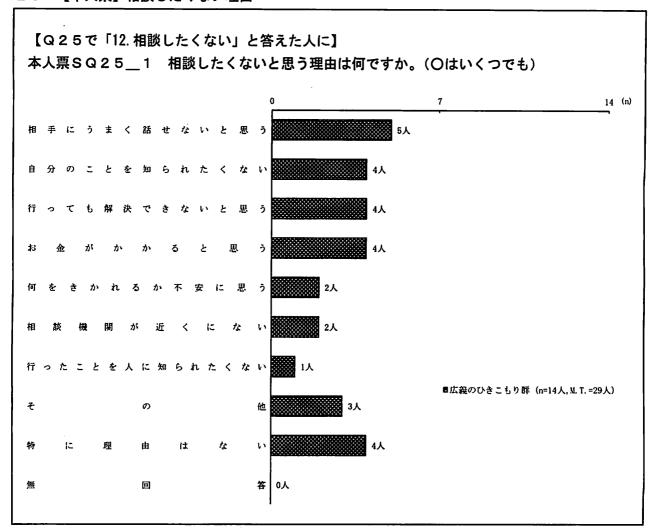


現在の状態を関係機関に相談するとすればどのような機関なら相談したいか 49 人に聞いたところ、「親身に聴いてくれる」をあげた者が 15 人、以下、「無料で相談できる」(11 人)、「心理学の専門家がいる」、「精神科医がいる」、「自宅から近い」(8 人)、「同じ悩みを持つ人と出会える」、「匿名で相談できる」(6 人)、「医学的な助言をくれる」(3 人)、「自宅に専門家が来てくれる」(2 人)、「公的機関の人や民間団体である」(1 人) となっている。

なお、「どのような機関にも相談したくない」は14人となっている。

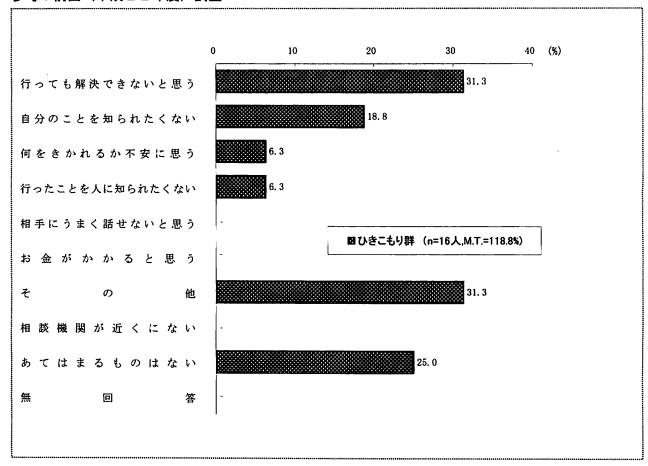


## 26 【本人票】相談したくない理由

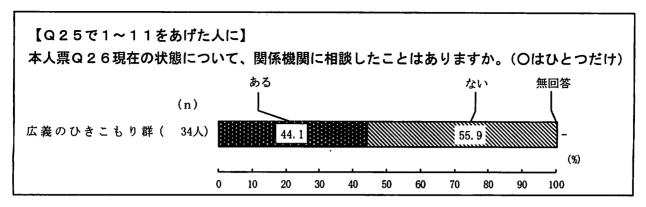


Q25で「相談したくない」と答えた者14人に、相談したくない理由を聞いたところ、「相手にうまく話せないと思う」をあげた者が5人、以下、「自分のことを知られたくない」、「行っても解決できないと思う」、「お金がかかると思う」(4人)、「何をきかれるか不安に思う」、「相談機関が近くにない」(2人)、「行ったことを人に知られたくない」(1人)となっている。

なお、「特に理由はない」は4人となっている。

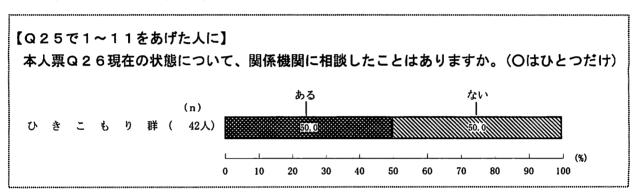


### 27 【本人票】関係機関に相談した経験

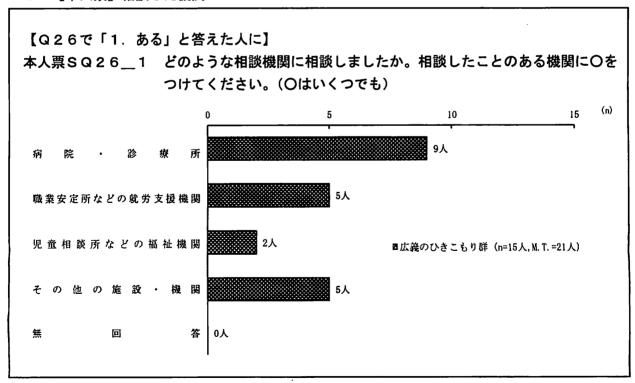


現在の状態について、関係機関に相談したことがあるか聞いたところ、「ある」と答えた者の割合が 44.1%、「ない」と答えた者の割合が 55.9%となっている。

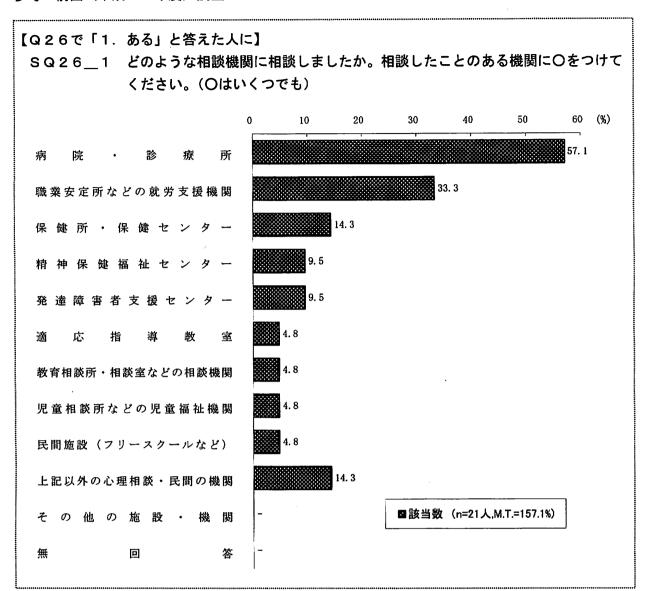
### 参考:前回(平成22年度)調査



#### 28 【本人票】相談した機関



相談したことがあると答えた者 15 人に、どのような相談機関に相談したか聞いたところ、「病院・診療所」をあげた者が 9 人、以下、「職業安定所・ジョブカフェ・地域若者サポートステーションなどの就労支援機関」(5人)、「児童相談所・福祉事務所などの福祉機関」(2人)、その他の施設・機関(「精神保健福祉センター」、「発達障害者支援センター」、「市役所」など)(5人)となっている。



## 29 【本人票】相談した結果

【Q26で「1. ある」と答えた人に】 本人票SQ26\_\_2 相談機関に相談した結果について、どのようにお考えですか。

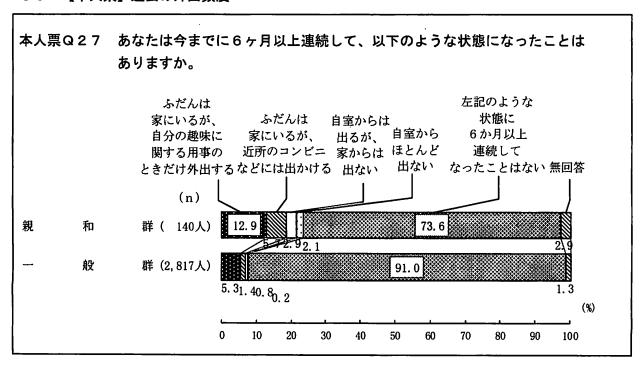
よかった	12
よくなかった	3
どちらともいえない	3
合計	18

以下では回答の一部を抜粋した。なお、回答からは個人が特定できないよう加工している。

男性	20~24 歳	よかった	思ってても何も変わらないから、良いと思ったことはすぐ試すように行動することが大事だと思った。
男性	30~34 歳	よかった	ひきこもりをなるべく早くやめたいと思った。
女性	35~39 歳	よかった	相談したら、作業所を紹介してもらえたので、相談し
	00 00 %	1.0% >10	て良かったと思う。
			自分のことをより理解できるようになり、また同じよ
男性	20~24 歳	よかった	うに上手くいかない人達と話すことで、辛い気持ちを
l			軽減できて良かったと思っています。
			病院を通して市役所と話が出来たので直接、市役所と
女性	30~34 歳	よかった	会話するより話が進んだ。病院を通さずに市役所へ行
			った時はたらい回しだった。
女性	25~29 歳	~29歳 よくなかった	何も解決しなかった。仕事が出来なくなり、生活が苦
			しくなった。
男性	35~39 歳	よくなかった	もう少し助言が欲しい
女性	35~39 歳	よくなかった	対応が遅い

## ※Q27の設問は、過去に広義のひきこもりであったと思われる人の群を定義するために使用した。

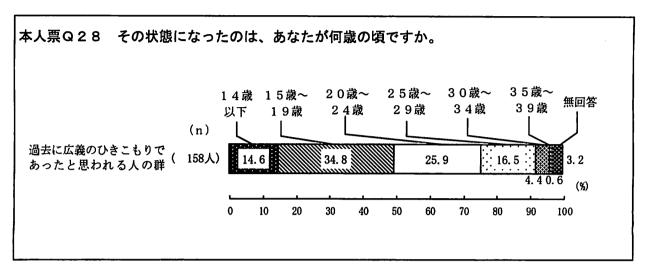
### 30 【本人票】過去の外出頻度



<u>※本人票Q28~Q31は、本人票Q20において外出頻度が高かった者(本人票Q20において</u> 1~4を選択した者)のみが回答する項目となっている。

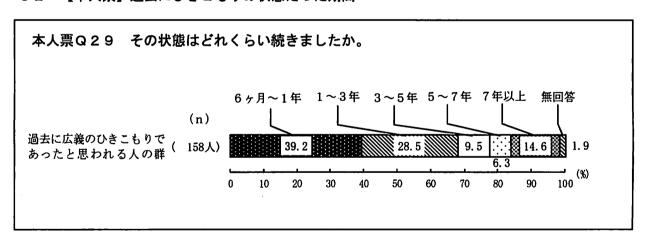
<u>本報告書ではその中でも過去に広義のひきこもりであったと思われる人の群に該当する者の結果に</u> ついて記載する。

### 31 【本人票】過去にひきこもりの状態になった年齢



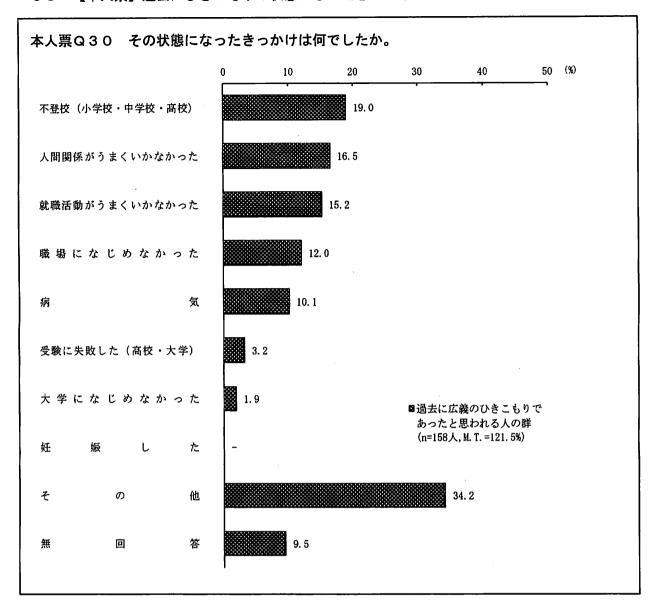
過去にひきこもりの状態になった年齢について聞いたところ、「14 歳以下」と答えた者の割合が 14.6%、「15 歳~19 歳」と答えた者の割合が 34.8%、「20 歳~24 歳」と答えた者の割合が 25.9%、「25 歳~29 歳」と答えた者の割合が 16.5%、「30 歳~34 歳」と答えた者の割合が 4.4%、「35~39 歳」と答えた者の割合が 0.6%となっている。

### 32 【本人票】過去にひきこもりの状態だった期間



「ひきこもり状態」の継続期間について聞いたところ、「 $6 ext{ }$ ヶ月~ $1 ext{ }$ 年」と答えた者の割合は 39.2%、「 $1 ext{ }$ ~ $3 ext{ }$ 年」と答えた者の割合は 28.5%、「 $3 ext{ }$ ~ $5 ext{ }$ 年」と答えた者の割合は 9.5%、「 $5 ext{ }$ ~ $7 ext{ }$ 年」と答えた者の割合は 14.6%となっている。

### 33 【本人票】過去にひきこもりの状態になったきっかけ



過去にひきこもりの状態になったきっかけについて聞いたところ、「不登校」をあげた者の割合は19.0%、「人間関係がうまくいかなかった」をあげた者の割合は16.5%、「就職活動がうまくいかなかった」をあげた者の割合は15.2%となっており、以下、「職場になじめなかった」(12.0%)、「病気」(10.1%)、「受験に失敗した」(3.2%)、「大学になじめなかった」(1.9%)となっている。

なお、その他(34.2%) については、「特になし・なんとなく」(8人)。「面倒だから」(3人)、「休みたかった」(2名)、「親族の死去」(2人)、「家から学校まで遠いから」、「家の方が落ち着くし、外に用事もない」、「身体の疲れ」、「学校不信」、「希望する髙校に入れなかった」、「ストレス発散」、「貯蓄」などを記載した者のほか、具体的な記載がない者や無回答の者も多かった。

## 34 【本人票】ひきこもりの状態ではなくなったきっかけや役立ったこと

# 本人票Q31 その状態からQ20で回答した現在の状態になったきっかけや役立ったことは 何だと思いますか。

以下では回答の一部を抜粋し、きっかけや役立ったこと別に分類した。なお、回答からは個人が特定できないよう加工している。

### <入学・進学・卒業>

· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
女性	30~34 歳	フリースクール的な学校に通い、友人やバイト、そして人間関係が上手く いくようになったから。
男性	20~24 歳	このままではいけないと思い、自分で勉強をして学校で資格を取って、就 職をしようと思ったから。学校を卒業できたのが、一番自信になりました。
女性	15~19 歳	フリースクールに行ったこと。

# <就職・転職>

男性	20~24 歳	自分にあった職につけたこと。自分を見つめ直し足りなかったことに気が
		付き、やりたいことが少しずつ見えてきたこと。
		きっかけは転職したことだと感じます。それまでは前の職場で経験した嫌
女性 30	30~34 歳	な事がトラウマとなり、なかなか前に進めない状況が続きました。時間が
		解決したこともありますが、家族や周りの友達と関わりながら、少しずつ
		社会復帰できたのだと思います。
女性	35~39 歳	気軽にアルバイトをし始めて、社会とのかかわりを持ったこと。

### <友人・知人>

100/1	-/ -	
女性	15~19 歳	イライラしたまま家にいることよりも外へ出て友人や職場の先輩に会うこ とでストレス発散になり、また良いアドバイスももらえる。
男性	15~19 歳	友達が遊びに来てくれた。
女性	25~29 歳	身近な人に自分の気持ちをぶつけたり、聞いてもらったり、心配してもらったこと。同じ様な経験をしている人達と知り合う事ができたこと。

# <家族・家庭>

女性	30~34 歳	家族が頻繁に外へと連れ出してくれていたので、外への壁を厚く感じることがなく、環境が変わったのをきっかけに、また学校へ通ったりすることが出来る様になりました。
女性	30~34 歳	友人や家族が側にいてくれたので以前のように自信がなくとも外出など、 普通の生活を送れるようになりました。
女性	25~29 歳	家族がよく外へ連れ出してくれ、また話をよく聞いてくれた。後は猫を飼っていたのも立ち直ったきっかけになりました。

# <医療機関・支援機関>

女性	30~34 歳	医療機関、地域活動支援センターと家庭との連携
男性	15~19 歳	病院の思春期外来に相談してみたことと、親友に相談してみたこと。

# <自身の成長(年齢・精神・体力)、時間の経過>

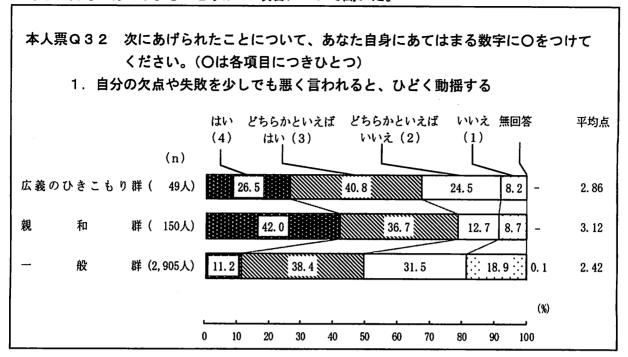
女性	20~24 歳	高校は必死に通って卒業した。"普通"に人生を送りたいと思い必死に就活をし働き、転職もした。不登校克服も就活も仕事も転職活動もつらかったが、諦めなければなんとかなるものだなと思った。
男性	30~34 歳	依存先のインターネットやネットゲームを大して面白くないものと捉える ように意図的に考えや見方を変えたこと。敢えてこのままではどんな事態 になるかを(気が塞ぎすぎない程度に)考え、想像したこと。
男性	30~34 歳	年齢を重ねて精神的に安定したため
男性	35~39 歳	特別な理由はなく、時間の経過により意識が変化していた。

# <生活のため(お金が無くなったため)>

女性	35~39 歳	生活資金が不足したため。社会との繋がりを保つため。
	i .	

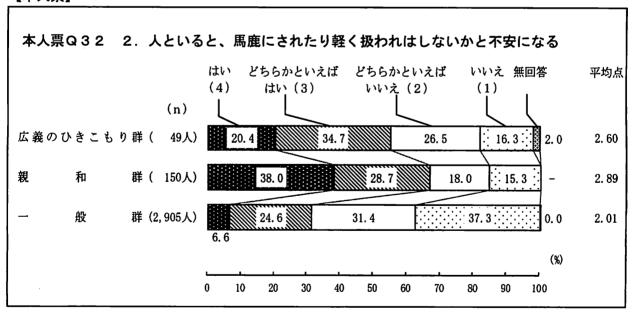
## 35 【本人票】自身にあてはまること

あなた自身にあてはまるかどうか16項目について聞いた。

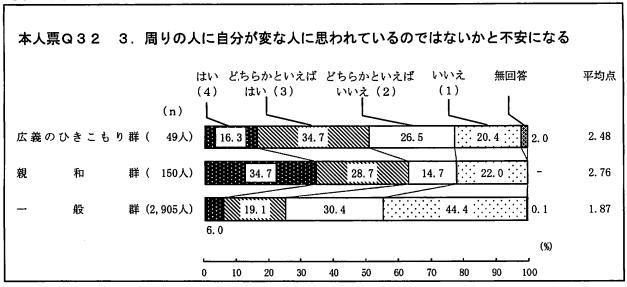


『自分の欠点や失敗を少しでも悪く言われると、ひどく動揺する』について聞いたところ、『はい』 (「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で 67.3%、親和群で 78.7%、一般群で 49.5%となっている。

### 【本人票】

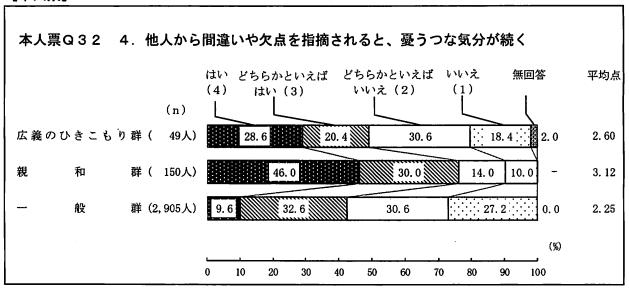


『人といると、馬鹿にされたり軽く扱われはしないかと不安になる』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で 55.1%、親和群で 66.7%、一般群で 31.2%となっている。

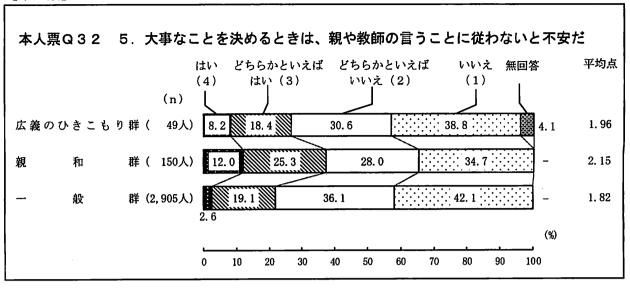


『周りの人に自分が変な人に思われているのではないかと不安になる』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で 51.0%、 親和群で 63.3%、一般群で 25.2%となっている。

## 【本人票】

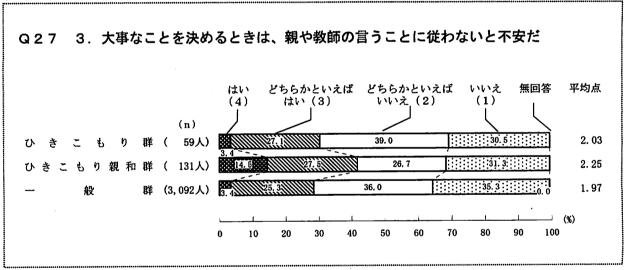


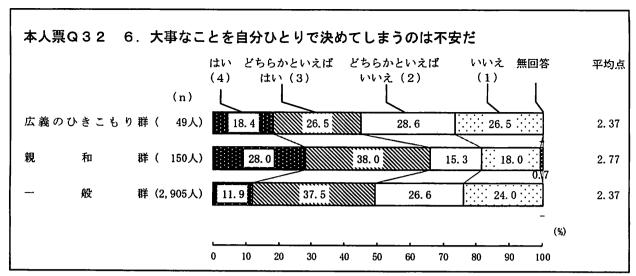
『他人から間違いや欠点を指摘されると、憂うつな気分が続く』について聞いたところ、『はい』 (「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で49.0%、親和群で76.0%、一般群で42.2%となっている。



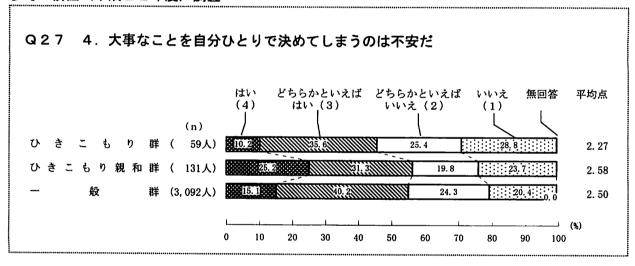
『大事なことを決めるときは、親や教師の言うことに従わないと不安だ』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で 26.5%、親和群で 37.3%、一般群で 21.8%となっている。

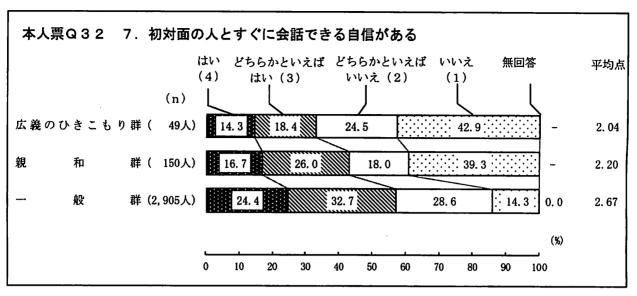
参考:前回(平成22年度)調査





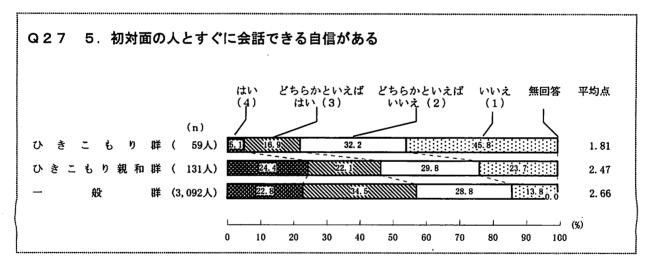
『大事なことを自分ひとりで決めてしまうのは不安だ』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で44.9%、親和群で66.0%、一般群で49.4%となっている。

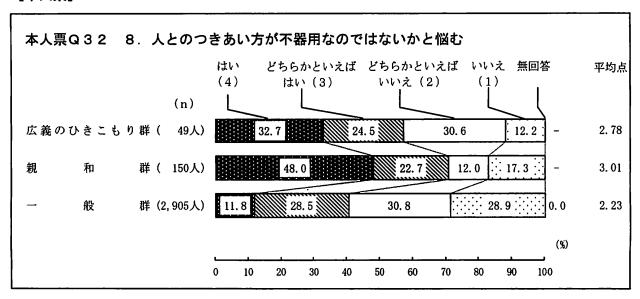




『初対面の人とすぐに会話できる自信がある』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で32.7%、親和群で42.7%、一般群で57.1%となっている。

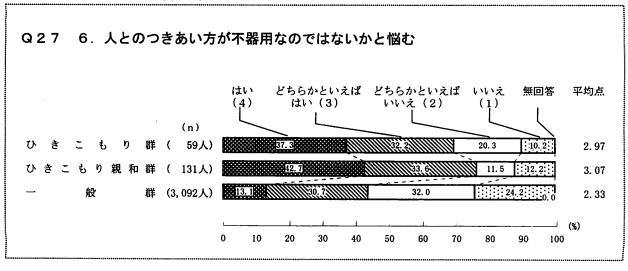
参考:前回(平成22年度)調査

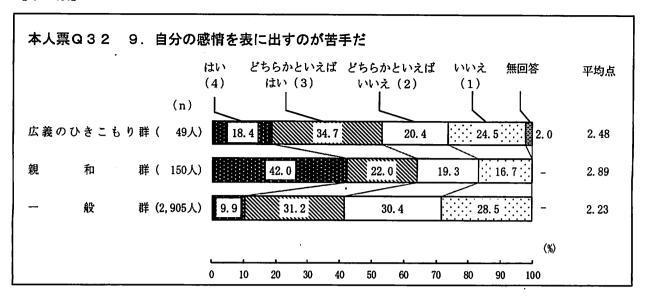




『人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む』について聞いたところ『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で 57.1%、親和群で 70.7%、一般群で 40.3%となっている。

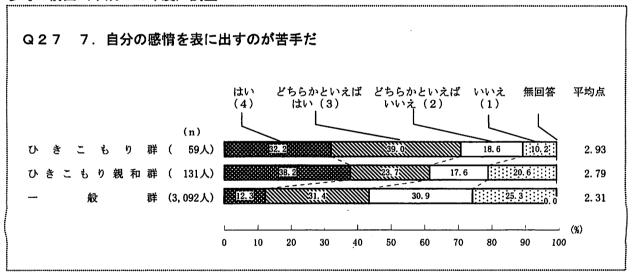
参考:前回(平成22年度)調査

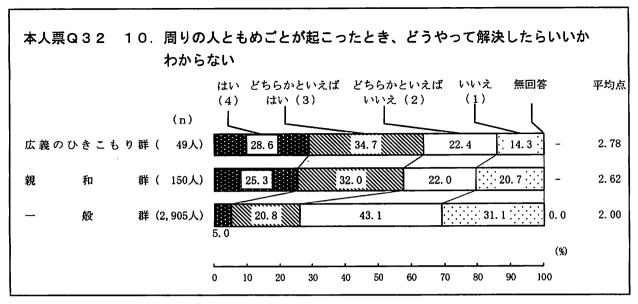




『自分の感情を表に出すのが苦手だ』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で53.1%、親和群で64.0%、一般群で41.1%となっている。

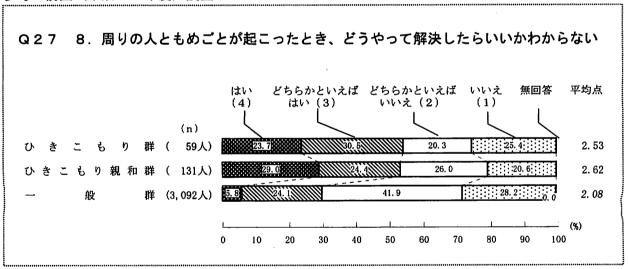
参考:前回(平成22年度)調査

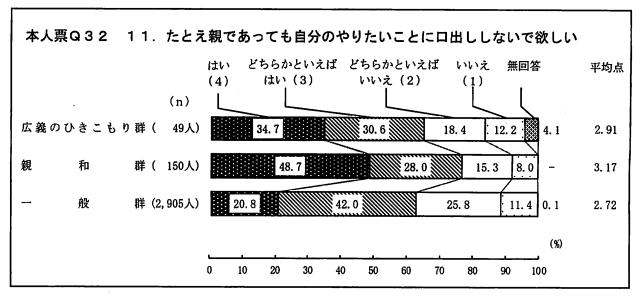




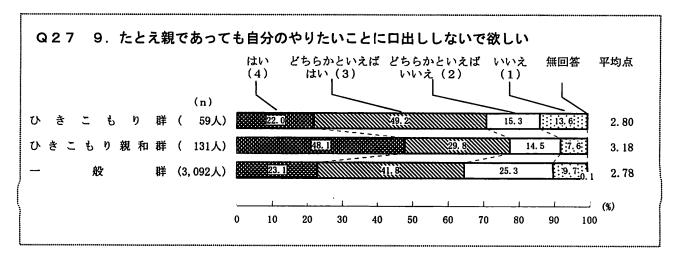
『周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で63.3%、親和群で57.3%、一般群で25.7%となっている。

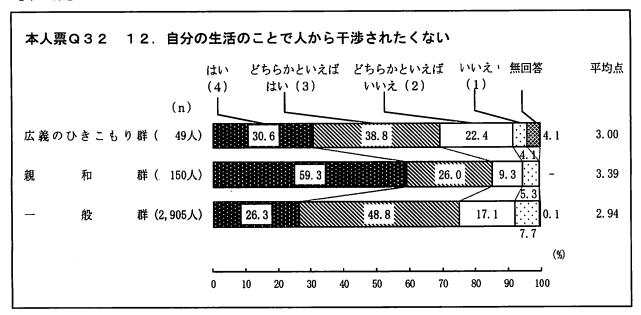
参考:前回(平成22年度)調査





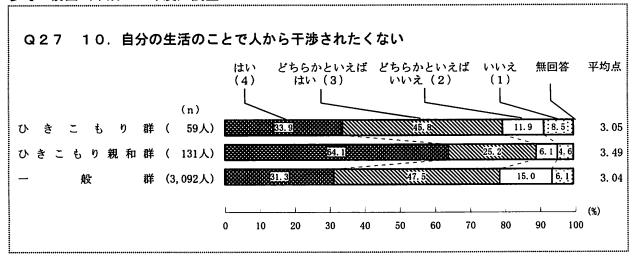
『たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないで欲しい』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で 65.3%、親和群で 76.7%、一般群で 62.7%となっている。





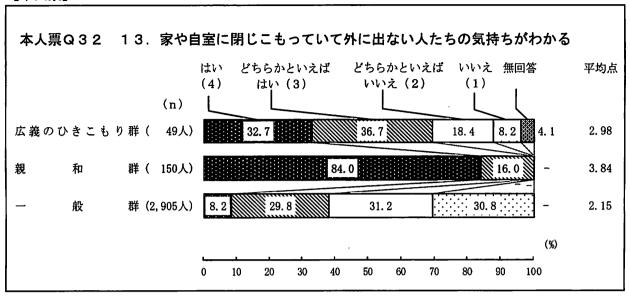
『自分の生活のことで人から干渉されたくない』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で 69.4%、親和群で 85.3%、一般群で 75.1%となっている。

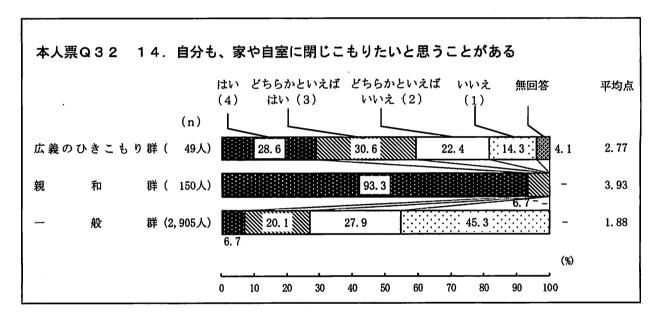
参考:前回(平成22年度)調査

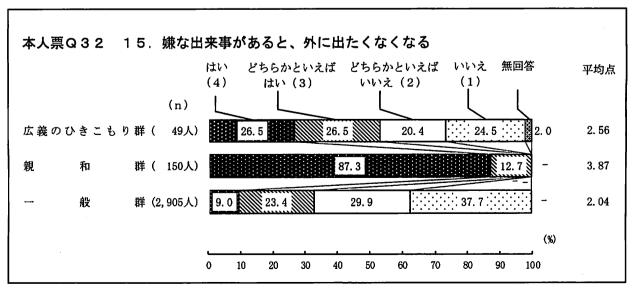


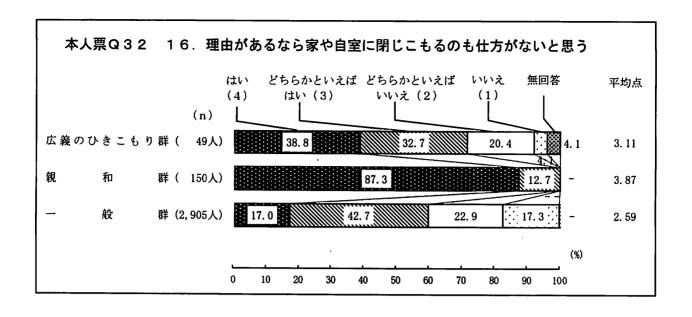
### ※Q32(13)~(16)の設問は親和群を定義するために使用した。

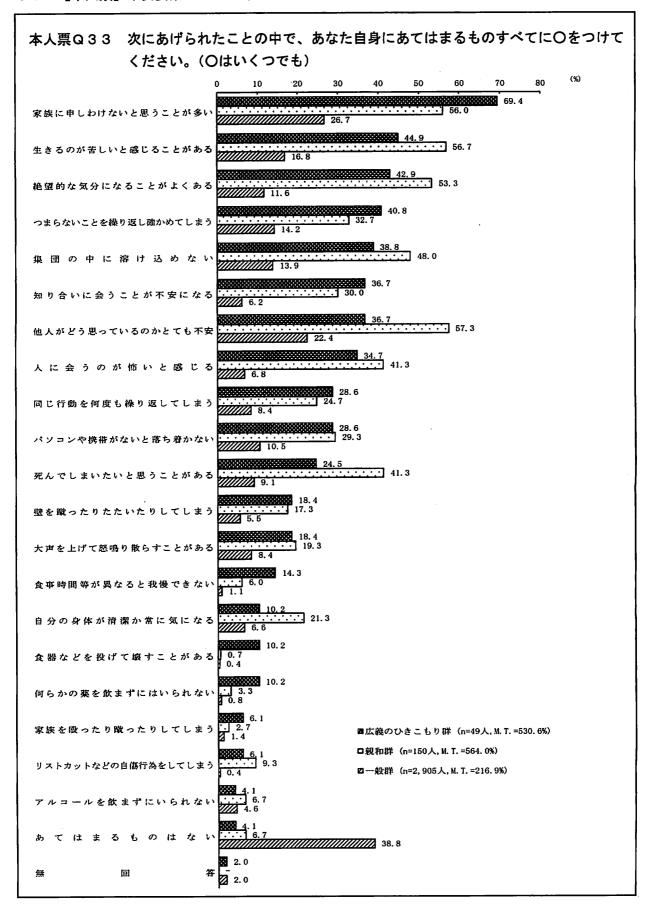
### 【本人票】











不安などの項目であてはまるものを聞いたところ、ひきこもり群では「家族に申し訳ないと思うことが多い」をあげた者が 69.4%と最も多く、以下、「生きるのが苦しいと感じることがある」 (44.9%)、「絶望的な気分になることがよくある」(42.9%)、「つまらないことを繰り返し確かめてしまう」(40.8%)となっていた。

親和群では、「他人がどう思っているのかとても不安」(57.3%)、「生きるのが苦しいと感じることがある」(56.7%)、「家族に申し訳ないと思うことが多い」(56.0%)、「絶望的な気分になることがよくある」(53.3%) について、5割を超える者があげていた。

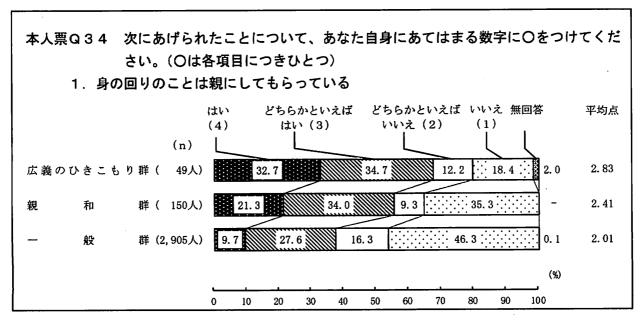
一般群では、「あてはまるものはない」(38.8%) が最も多かった。

# Q28 次にあげられたことの中で、あなた自身にあてはまるものすべてにOをつけてください。(Oはいくつでも)

10 50 60 70 80 (%) 71. 2 家族に申しわけないと思うことが多い 集団の中に溶け込めない 他人がどう思っているかとても不安 生きるのが苦しいと感じることがある 知り合いに会うことが不安になる 死んでしまいたいと思うことがある 人に会うのが怖いと感じる 絶望的な気分になることがよくある つまらないことを繰り返し確かめる 同じ行動を何度も繰り返してしまう パソコンや携帯がないと落ち奇かない 29. 0 自分の身体が消潔か常に気になる 何らかの薬を飲まずにはいられない 壁を蹴ったり叩いたりしてしまう 25. 2 16. 2 食器などを投げて壊すことがある 20. 6 9. 8 大声上げて怒鳴り散らすことがある リストカット等の自傷行為をしてしまう ■ひきこもり群 (n=59人, M. T. =530. 5%) □ひきこもり親和群 (n=131人, M, T, =628, 2%) アルコールを飲まずにいられない □一般群 (n=3,092人, M. T. =229.7%) 家族を殴ったり蹴ったりしてしまう 食事時間等が異なると我慢できない あてはまるものはない 38. 2 回 答 0.2

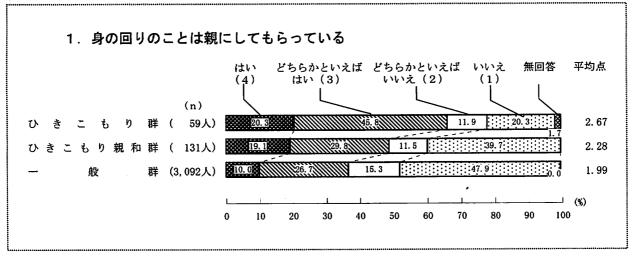
### 37 【本人票】ふだんの生活態度

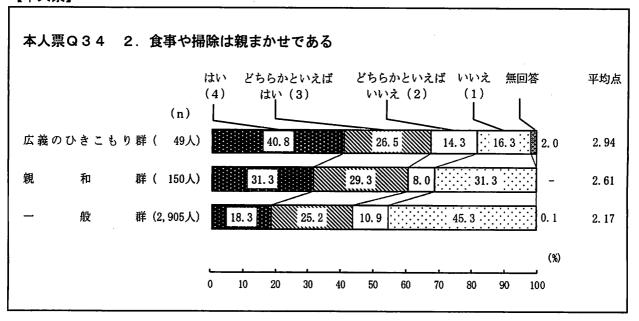
あなた自身にあてはまるかどうか12項目について聞いた。



『身の回りのことは親にしてもらっている』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で67.3%、親和群で55.3%、一般群で37.4%となっている。

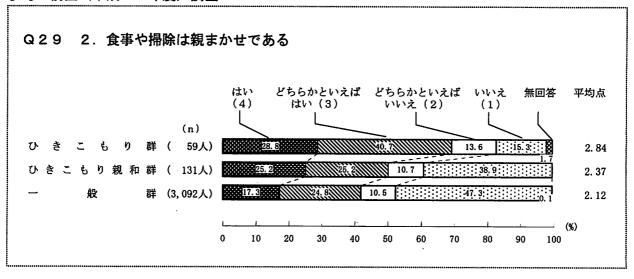
## 参考:前回(平成22年度)調査

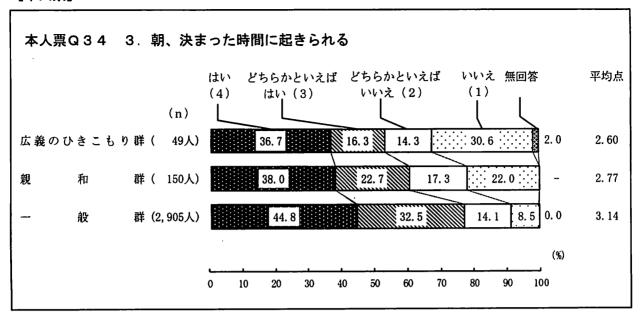




『食事や掃除は親まかせである』について聞いたところ『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で67.3%、親和群で60.7%、一般群で43.6%となっている。

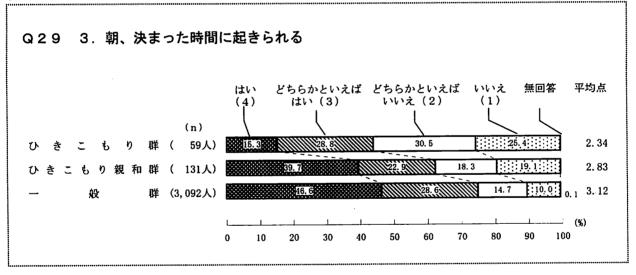
参考:前回(平成22年度)調査

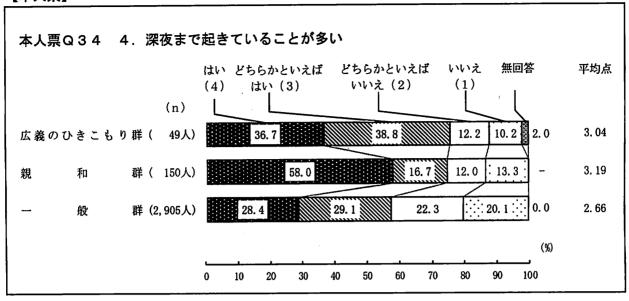




『朝、決まった時間に起きられる』について聞いたところ、『いいえ』(「いいえ」+「どちらかといえばいいえ」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で44.9%、親和群で39.3%、一般群で22.7%となっている。

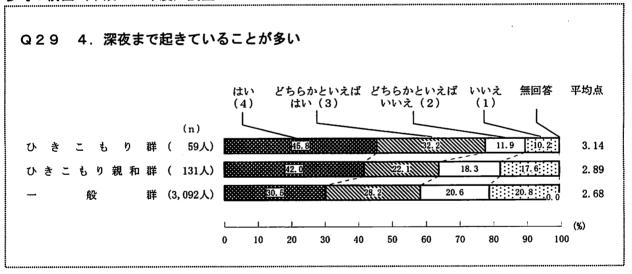
参考:前回(平成22年度)調査

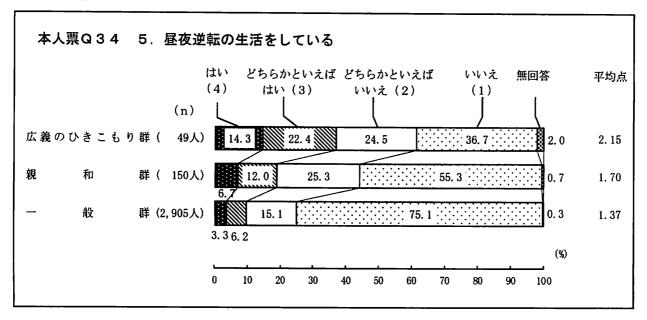




『深夜まで起きていることが多い』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で75.5%、親和群で74.7%、一般群で57.5%となっている。

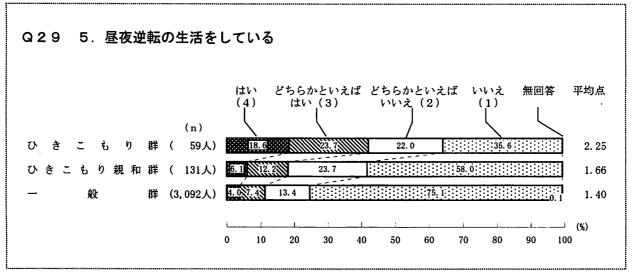
参考:前回(平成22年度)調査

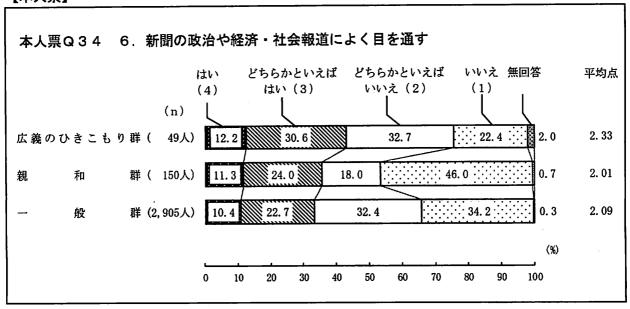




『昼夜逆転の生活をしている』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」) とする者の割合は、広義のひきこもり群で36.7%、親和群で18.7%、一般群で9.5%となっている。

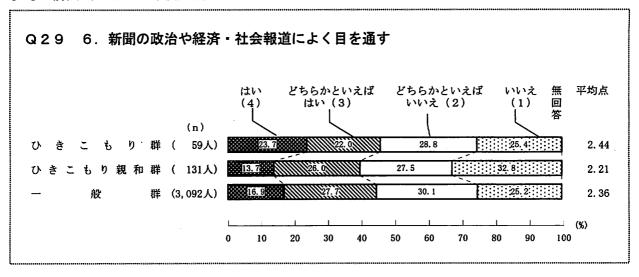
参考:前回(平成22年度)調査

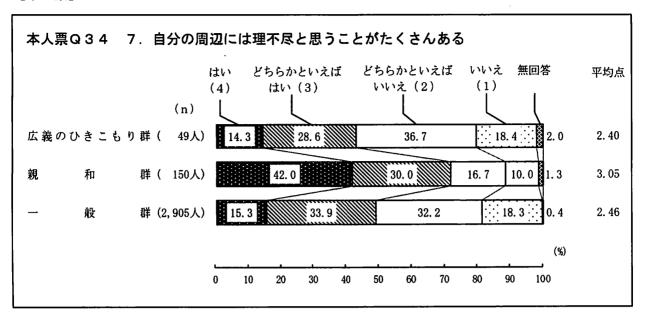




『新聞の政治や経済・社会報道によく目を通す』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で 42.9%、親和群で 35.3%、一般群で 33.1%となっている。

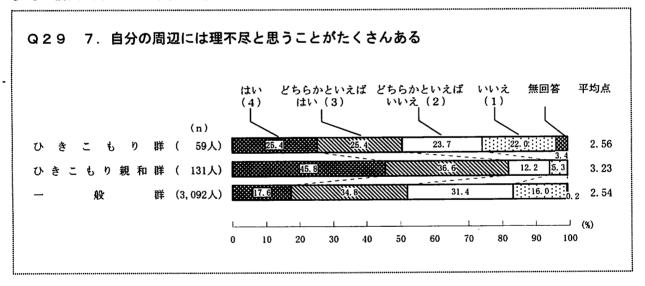
参考:前回(平成22年度)調査

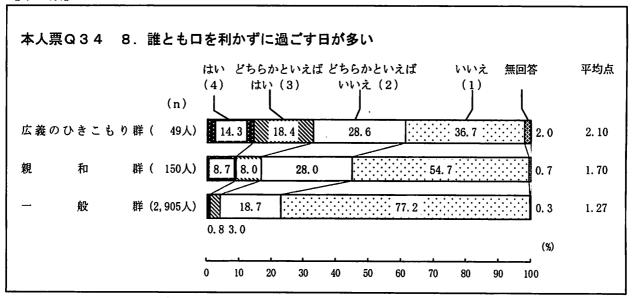




『自分の周辺には理不尽と思うことがたくさんある』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で 42.9%、親和群で 72.0%、一般群で 49.2%となっている。

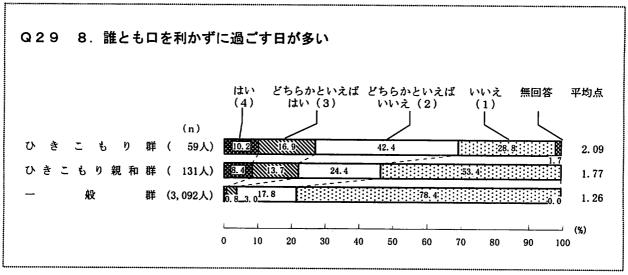
# 参考:前回(平成22年度)調査

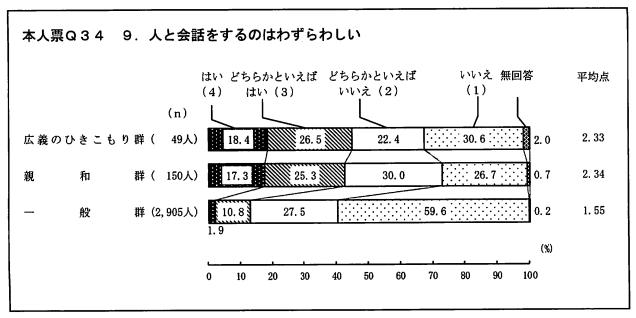




『誰とも口を利かずに過ごす日が多い』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で32.7%、親和群で16.7%、一般群で3.8%となっている。

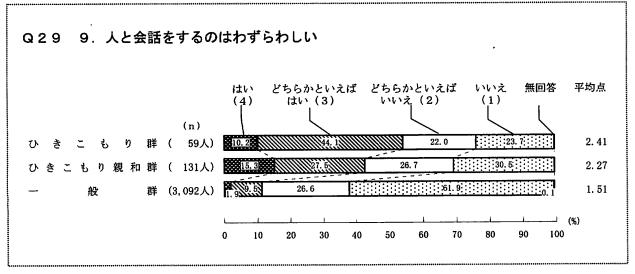
参考:前回(平成22年度)調査

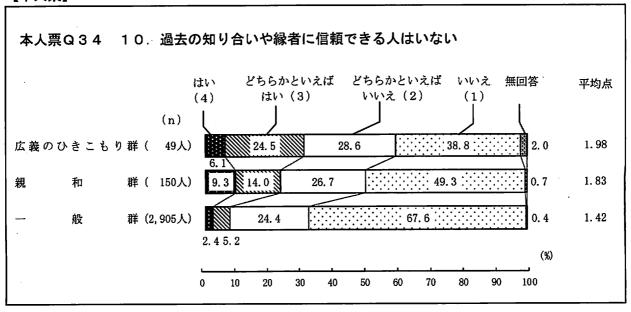




『人と会話をするのはわずらわしい』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で44.9%、親和群で42.7%、一般群で12.7%となっている。

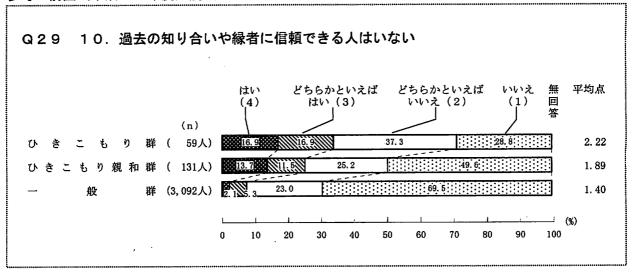
参考:前回(平成22年度)調査

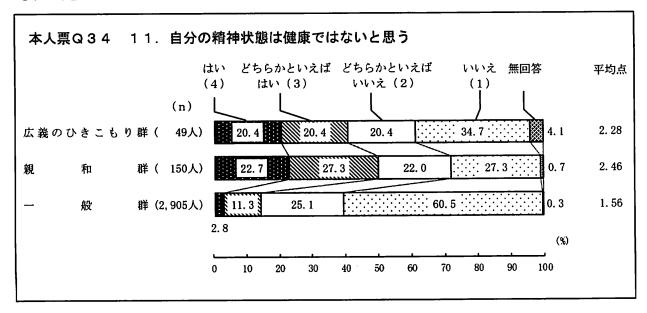




『過去の知り合いや縁者に信頼できる人はいない』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で30.6%、親和群で23.3%、一般群で7.6%となっている。

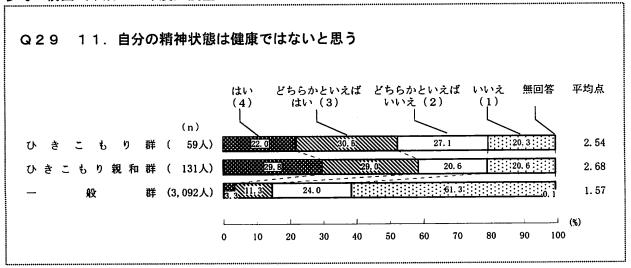
参考:前回(平成22年度)調査



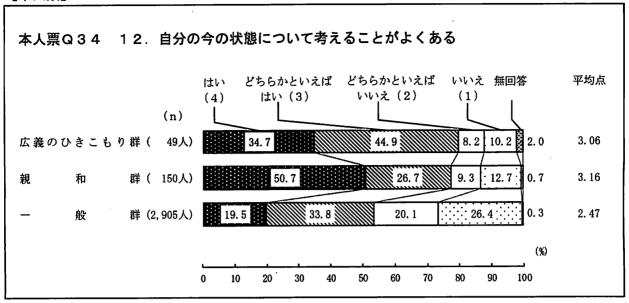


『自分の精神状態は健康ではないと思う』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で40.8%、親和群で50.0%、一般群で14.1%となっている。

参考:前回(平成22年度)調査

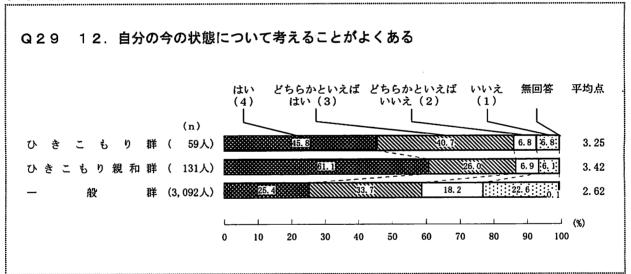




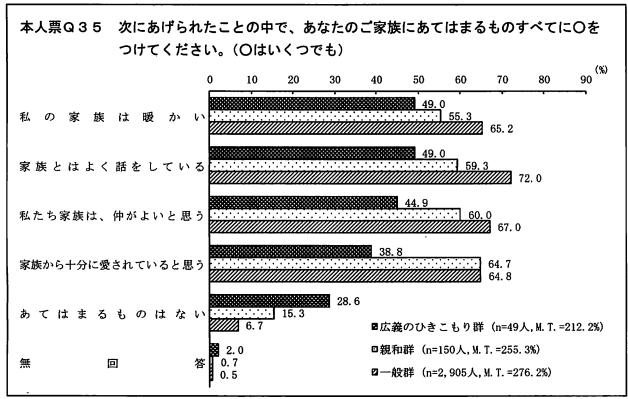


『自分の今の状態について考えることがよくある』について聞いたところ、『はい』(「はい」+「どちらかといえばはい」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で 79.6%、親和群で 77.3%、一般群で 53.3%となっている。

参考:前回(平成22年度)調査

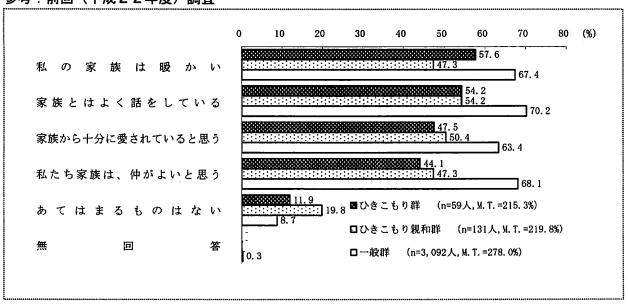


### 38 【本人票】家庭の状況



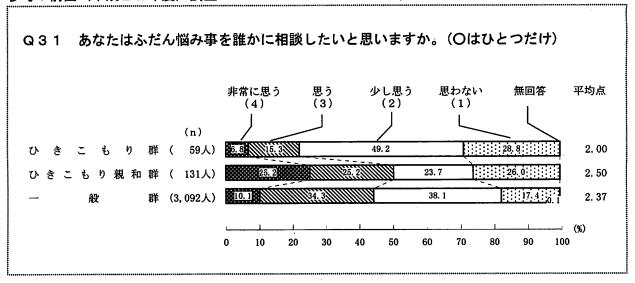
家庭の状況について聞いたところ、「私の家族は暖かい」をあげた者の割合は広義のひきこもり群で 49.0%、親和群で 55.3%、一般群で 65.2%となっている。「家族とはよく話をしている」をあげた者の割合は広義のひきこもり群で 49.0%、親和群で 59.3%、一般群で 72.0%となっている。「私たち家族は、仲がよいと思う」をあげた者の割合は広義のひきこもり群で 44.9%、親和群で 60.0%、一般群で 67.0%となっている。「家族から十分に愛されていると思う」をあげた者の割合は広義のひきこもり群で 38.8%、親和群で 64.7%、一般群で 64.8%となっている。

参考:前回(平成22年度)調査

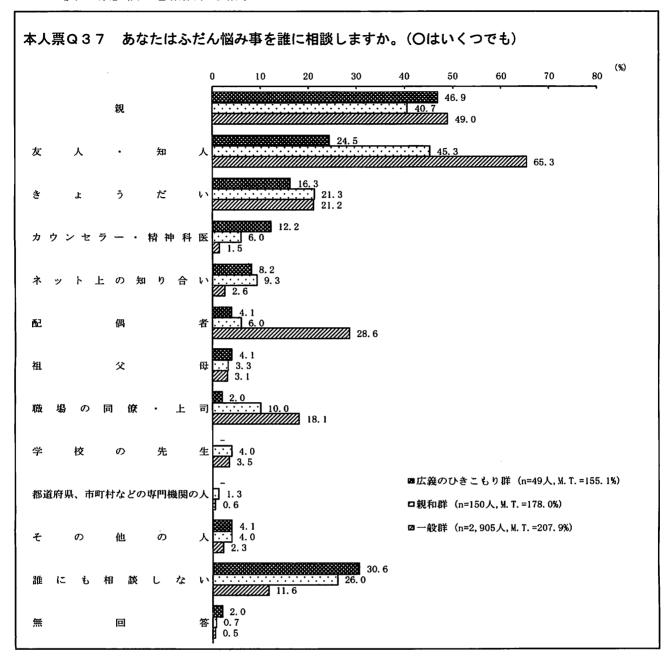


悩みを誰かに相談したいかどうかについて聞いたところ、『思う』(「非常に思う」+「思う」+「少し思う」)とする者の割合は、広義のひきこもり群で59.2%、親和群で74.7%、一般群で81.8%となっている。

# 参考:前回(平成22年度)調査



## 40 【本人票】悩みを相談する相手



悩みを相談する相手について聞いたところ、「誰にも相談しない」をあげた者の割合は広義のひきこもり群で30.6%、親和群で26.0%、「友人・知人」をあげた者の割合は一般群で65.3%、「カウンセラー・精神科医」をあげた者の割合は広義のひきこもり群で12.2%、親和群で6.0%、「ネット上の知り合い」をあげた者の割合は広義のひきこもり群で8.2%、親和群で9.3%、「配偶者」をあげた者の割合は一般群で28.6%、「職場の同僚・上司」をあげた者の割合は一般群で18.1%となっている。

参考:前回(平成22年度)調査

